

P M シンポジウム 2024

「変革の時代に備える」

～次世代のプログラム&プロジェクトマネジメントとは～

9 5 Day 1 THU – 6 Day 2 FRI

タワーホール船堀 (大ホール)

主催：特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ)

後援：経済産業省(METI) 予定 / 一般財団法人エンジニアリング協会(ENAA) 予定

独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO) / 独立行政法人情報処理推進機構(IPA)

一般社団法人 PMI 日本支部(PMIJ) / 特定非営利活動法人ITコーディネータ協会(ITCA)

一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会(JUAS)

ハイフレックス
開催

会場&ライブ配信&
オンデマンド配信

詳細はWEBページを
ご確認ください

PMシンポジウム 2024

PMシンポジウム2024大会テーマ

「変革の時代に備える」

～次世代のプログラム&プロジェクトマネジメントとは～

今や地球環境破壊、世界情勢の不安定化など先が見えない時代となってきました。一方企業では、DX時代において環境変化に即応したDX戦略やSDGsに対応した戦略が求められています。こうした中、国や自治体・企業が生き残りをかけて未来に備える／未来に挑戦して事業発展することが重要になっています。

今年のPMシンポジウム2024では、大会テーマ「変革の時代に備える」のもと、次世代のプログラム&プロジェクトマネジメントについて考えていきたいと思えます。

PMAJでは、P2Mというプログラム&プロジェクトマネジメントガイドブックを提供しています。今年度改訂第4版を出版します。新時代に備えたガイドブックを提供します。

PMシンポジウム2024 実行委員長からのメッセージ

コロナ感染からようやく解放され、通常の日常が戻ってきました。

今年のPMシンポジウム2024も、ハイフレックス開催(会場、オンライン、オンデマンド)しますが、より皆さんとのリアルなコミュニケーションを図るべく昨年より広いタワーホール船堀大ホールにて多くの会場参加者をお迎えし開催します。またDay1の講演終了後の懇親会を復活させます。

今年も幅広いPM分野を網羅、ワンストップで興味・関心のある講演を選択できます。全体では58講演用意させて頂きました。

今年の8月には、PMAJの売りであるP2M(プログラム&プロジェクトマネジメント)ガイドブックの改訂第4版の出版を行います。そのため当PMシンポジウム講演でもプログラムマネジメント分野を拡大しました。ご期待下さい。

会場でお待ちしています。

PMAJ副理事長兼PMシンポジウム実行委員長
早川 喜彦



各種ポイントの発行について

発行ポイントは次のとおりです。

CPU ■ Day1 : 12ポイント ■ Day2 : 12ポイント

PDU ■ Day1 : 6PDU ■ Day2 : 6PDU

PMP®資格更新に必要なポイント(PDU)を取得できます

ITC実践カポイント ■ Day1 : 1.5ポイント ■ Day2 : 1.5ポイント

IPMI][PMP][PMBOK]は、Project Management Institute, Inc. (PMI)の登録商標です。
IBABOK]は、International Institute of Business Analysis (IIBA)の登録商標です。
[PSP][PRINCE2][ITIL]は、AXELOS Limitedの登録商標です。
[PMAJ][ICB][OCB][IPMA Delta]は、International Project Management Association (IPMA)の登録商標です。
[PMAJ][P2M][PMPR][PMS]は、日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ)の登録商標です。

KN-01

「つながる時代」の経営とプロジェクトマネジメント
～エコシステム型モデルで築く未来～独立行政法人情報処理推進機構 (IPA) 理事長 兼 デジタルアーキテクチャ・デザインセンター長 齊藤 裕 **B**

ネットワーク上ですべてがつながり、生産・販売・物流・決済をデジタルに管理できる今、1社ですべてのサービスを一元的に提供可能なデジタルプラットフォームを構築したメガプラットフォームたちが、世界の市場を席捲している。デジタル技術の力でデータの収集・共有・利活用、そしてワークフローの最適化を実現した彼らのビジネスモデルが、「つながる時代」に体现された、新しい価値創出の仕組みとなっていることを目の当たりに、欧州では対抗策としての企業・業界の垣根を超えたさまざまなデータ共有基盤の構築が進められている。

一方、かつて圧倒的な現場力と人間力を競争力の源泉に経済大国として君臨していた日本は、デジタル化の波に乗り遅れて他国の後塵を拝している。この現状を打破すべく、個々の専門性とつながりを活かす「エコシステム」の構築を提言し、これからの企業経営と各種プロジェクトへのアプローチ、そして成長を実現するために必要な競争条件について、IPAでの取り組みも含めて論じたい。

【講師略歴】

1979年3月東京大学工学部卒業、同年4月日立製作所入社。情報制御システム分野を中心に、代表執行役執行役員副社長として情報・通信システムグループ長、IoT推進本部長などを歴任。2018年4月にファナックに入社、取締役副社長執行役員IoT統括本部長などを務める。2020年5月独立行政法人情報処理推進機構顧問（デジタルアーキテクチャ・デザインセンター長）に就任。2022年7月特別参与、2023年4月から現職。



KN-02

日揮グループにおける“デジタル変革”の軌跡
～CDOの経験から語る“DXの要諦”とは～日揮ホールディングス株式会社 専務執行役員 CHRO (最高人事責任者) 花田 琢也 **B**

2017年、米国ヒューストン、客先であるメジャーオイルから「デジタル変革(DX)を進めないと2030年には恐竜(ダイナソー)になってしまうぞ!」との挑戦的なアドバイスを受け、日揮グループのデジタルジャーニーは始まった。2018年、CDOに就任してまず着手したのが「ITグランドプラン2030」の策定であった。客先のアドバイスである“2030年、現在の工数の1/3、工期は倍のスピードでプロジェクトを遂行”というDXの“WHY”を掲げ、半年間でグランドプランを取り纏めた。

しかし、そのデジタルジャーニーには、組織面や人事面、そして技術面で多くの難題が浮かび上がる。DX-Highwayを疾走できる魔法のギアチェンジのような処方箋は存在するのか? 難題への“打ち手”となった具体的な事例を以って“DX推進の要諦”を語る。後半では、トヨタ自動車への出向やNTTとの協業、アルジェリア国現地法人代表など多くの越境経験を通じて垣間見たビジネスの勘所を紹介する。

【講師略歴】

1982年日揮株式会社に入社、エンジニアとして海外プラントPJに参画。トヨタ自動車に出向して海外工場建設に参画、NTTグループと「トライアンプ21」を発足してCEOに就任。その後、日揮アルジェリア現地法人CEO、国際プロジェクト部長、事業開発本部長、人財・組織開発部長を経て、2018年日揮グループのCDOに就任。2021年に日揮グローバル エンジニアリングセンター プレジデントに就任し、2022年4月より現職に至る。



9/5
THU
Day
1

懇親会

17:50~19:00
(タワーホール船堀2階「蓬莱」)

- ・PMシンポジウム2024申込者は無料
- ・PMコミュニティ活性化の場としてご利用下さい
- ・お申込み時に「懇親会参加」を選択下さい

Live 9/5 ライブ配信 / 9/10~10/6 オンデマンド配信	
9:20~9:30	開会挨拶
9:30~10:30	基調講演 [KN-01] 「つながる時代」の経営とプロジェクトマネジメント ~エコシステム型モデルで築く未来~ 独立行政法人情報処理推進機構 (IPA) 齊藤 裕 B
10:45~11:45	特別講演 [SP-11] 改訂第4版P2M標準ガイドブックの特徴解説 慶應義塾大学大学院/P2Mガイドブック改訂委員会 当麻 哲哉 B
12:45~13:45	特別講演 [SP-12] プロジェクト・パフォーマンスにおけるチームワークとAIの未来 ~プロジェクトマネジメントにおける計算の可能性とリスク~(日本語講演) Massachusetts Institute of Technology Bryan R. Moser P
14:00~15:00	特別講演 [SP-13] AI時代のリスクリング ~1人ひとりが学際的スキル (IDスキル) を持つ重要性~ 一般社団法人ジャパン・リスクリング・イニシアチブ 後藤 宗明 W
15:15~16:15	特別講演 [SP-14] プログラム&プロジェクトマネジメントの実践例 ~カタールLNGプロジェクトの記録~ 千代田化工建設 池田 誠一郎 W
16:30~17:30	特別講演 [SP-15] 歴史ある企業においてどのようにすればDXが実現できるのか ~CSDXの事例を通じて~ クレディセゾン 小野 和俊 P

一般講演 9/5~10/6 オンデマンド配信

[PR] プログラムマネジメント (P2M) 実践 [A-01] 次世代の月探査プログラム ~有人と圧ローバーにおける不確実性マネジメント~ 宇宙航空研究開発機構 神吉 誠志 CfP W	[PR] プログラムマネジメント (P2M) 実践 [A-02] 製造業における企業内の「新規事業開発」~強みやコア技術を活かした新規事業開発の実際~ PMAJ会員活動 井口 佳一 P	[PR] プログラムマネジメント (P2M) 実践 [A-03] 大阪関西万博海外パビリオン建設受命活動の時系列的变化 ~オンプロセス・ポートフォリオマネジメントの実際~ PMAJ会員活動 坂井 剛太郎 B	[PM] プロジェクトマネジメント実践 [A-04] Empowering project professionals in the age of DX & AI ~★英語講演+日本語字幕付き★~ PMI Asia Pacific SoHyun Kang P
[PM] プロジェクトマネジメント実践 [A-05] 次世代に伝えたい!火消しPMが語るPMBOK (R) ガイドでは学べない10個の秘訣 日立社会情報サービス 松田 章 P	[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化 [A-06] 本質を突く日常動作がPMを成功させる ~あなたの右腕は表1枚のテライチャート~ 特定非営利活動法人 知恵創り協会 寺井 和雄 CfP W	[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化 [A-07] 両利きのプロジェクトマネジメント ~選択を可能とし組織コンテキストに介入する新しいやり方~ トヨタシステムズ 河路 裕司 CfP P	[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化 [A-08] 可観測性実装による攻めのクラウド運用管理 ~データ分析基盤で複雑化に備える~ エフサステクノロジーズ 大場 重志 W
[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化 [A-09] そろそろ失敗プロジェクトから脱出しませんか? ~数多くの若手PMへの研修会を通じて~ PMマイスター/PM Office 前田 修 W	[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化 [A-10] エフィカシーで実現するアジャイルSDTs ~自律可能な開発チーム~ 関西電力/オプテージ 水谷 洋太/松田 拓大 P	[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化 [A-11] 国連・欧州のプロジェクトマネジメント標準におけるマネジメント組織と実践事例 ~ビジネス・ユーザー・サプライヤの三位一体構築~ PMAJ会員活動 PM研究・研修部会 尾形 順一 P	[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化 [A-12] PMIアジャイル実務ガイドとPMBOKの実践活用 ~PMBOKガイド第7版との関係を含め解説~ PMAJ会員活動 PM研究・研修部会 大泉 洋一/河路 裕司/日吉 春華 W
[BS] 戦略及びビジネスマネジメント [A-13] 次世代の企業をデザインするアーキテクトの役割 ~EA/TOGAFによるデータドリブン&AI時代の企業変革~ Ridgelinez 中村 一仁 B	[BS] 戦略及びビジネスマネジメント [A-14] 成功のストーリーを描くために ~要求起点とシステム全体起点の「プランニング」の継承~ 富士通 御魚谷 かおる B	[BS] 戦略及びビジネスマネジメント [A-15] 生成AIの教科書 ~生成AIでPMはどう変わるのか、トレンドから事例まで解説~ AINOV/生成AI活用普及協会 小澤 健祐 W	[SS] 社会課題解決 [A-16] 人が減っても豊かで幸せな未来を創る! ~より良い未来を次世代に繋ぐ~ 一般社団法人DX NEXT TOHOKU 淡路 義和 B
[SH] その他人文科学分野 [A-17] 何をしたら心理的安全性や働く幸せを作れるのか ~働きがいに向上につながるチーム力向上の取組事例~ TIS 川野 いずみ P	[SS] 社会課題解決 [A-18] 「決済」を通じた変革への挑戦 ~会津若松スマートシティの取組について~ TIS 岡山 純也 B	[IN] イノベーション [A-19] 未来を創造する生成AI/日本のビジネスにおける生成AIの活用とは? ~生成AIを用いたイノベーション効率化の戦略を取り込む方法~ 生成AIビジネス・ラボ (YouTube) かわごん W	[HR] 人材育成・働き方改革 [A-20] ベテランPM経験知の継承と次世代育成 ~時代や技術が変化しても有益な経験知とその活用~ 細野技術士事務所 細野 一雄 B
[HR] 人材育成・働き方改革 [A-21] 個人の内面成長とプロジェクトマネジメント ~IDGsを活用し、日本人の良さを活かしたPMを実践する~ フォレストリサーチ&コンサルティング 森 雅司 CfP P	[HR] 人材育成・働き方改革 [A-22] 変革の波への柔軟性と貫くべき不変性 ~勝利に導いたWBC採配と12の原理原則の共通点~ AKKODiSコンサルティング 坂本 芳湖 P	[SS] 社会課題解決 [A-23] SDGs事業立ち上げ支援活動をした5年間の軌跡 ~PMI日本支部による事業者伴走の実態と課題~ 一般社団法人PMI日本支部 稲葉 涼太/西原 真仁 W	

Day1/Day2共通 9/5~10/6 オンデマンド配信 (本シンポジウムにお申込みされた方は、皆様ご視聴頂けます)

[EX-01] 2024年問題状況下におけるPMS利活用 ~2024年問題さなかのPMSツール利活用. その定着の難しさと解決策について~ TIS千代田システムズ 山口 亮二	[EX-02] 開発現場を盛り上げたらトラブル0になった件 ~エンジニアリングの力を引き出す、PMの秘策~ アジャイルウェア 小林 稔央	[EX-03] プロジェクトマネジメント資格と対策講座のご紹介 ~P2M資格 (PMC, PMS) にチャレンジ!~ パナソニック ソリューションテクノロジー 中島 貴代子	[EX-04] イノベーションを起こすプロジェクトデザイン思考 ~DXプロジェクトへの対応能力について~ グローバルプロジェクトデザイン・ジャパン 池 大	[EX-05] プロジェクトを成功に導くチェンジマネジメント ~PMIに求められる新たな能力とは?~ 日本アタウェイ 和田 円香
--	---	---	--	---

9/6

FRI

Day 2

Live 9/6 ライブ配信 / 9/10~10/6 オンデマンド配信	
9:30~10:30	基調講演 [KN-02] 日揮グループにおける“デジタル変革”の軌跡 ~CDOの経験から語る“DXの要諦”とは~ 日揮ホールディングス 花田 琢也 B
10:45~11:45	特別講演 [SP-21] Hayabusa小惑星探査と2代目Hayabusa2の差異 ~コンボ担当/プロマネ双方の立場から~ 宇宙航空研究開発機構 國中 均 W
12:45~13:45	特別講演 [SP-22] 富士通のデリバリー変革と挑戦 ~全社レベルでの一体型デリバリを進めるためのポイント~ 富士通 齋藤 伸一 B
14:00~15:00	特別講演 [SP-23] リ・スキリングの前に人生のリ・デザインから ~人生100年、豊かに生きるマインドとスキルとは~ 法政大学 廣川 進 P
15:15~16:15	特別講演 [SP-24] 2030年の品質保証は質価値創造へ ~モノ中心意識・評価基準・プロセスの大変革~ 2030年の質価値創造研究会 / 一般社団法人中部品質管理協会 細見 純子 P
16:30~17:30	特別講演 [SP-25] 生成AIとソフトウェア開発への応用 ~AI in the Loop~ デザイナーズデン 酒匂 寛 W

一般講演 9/6~10/6 オンデマンド配信

[PR]プログラムマネジメント(P2M)実践	[PR]プログラムマネジメント(P2M)実践	[PR]プログラムマネジメント(P2M)実践	[PR]プログラムマネジメント(P2M)実践
[B-01] 富士通がグローバルで挑む「OneERP+」のリアル ~データドリブン経営の実現に向けた変革~ 富士通 東 大祐 B	[B-02] P2Mのフレームワークを用いた戦略的思考力育成研修 日立製作所 吉村 真人 CfP P	[B-03] PMRが語る プログラムマネジメントの実践応用 ~プログラムマネジメントの活用事例~ PMAJ会員活動 APC (Advanced PMR Club) 枝窪 肇 / 林 健太郎 / 星野 隆之 P	[B-04] R&Dフェーズのプログラム・プロジェクトマネジメントの勘どころ(実践事例紹介) PMAJ会員活動 研究開発マネジメントSIG 今野谷 史 B
[PM]プロジェクトマネジメント実践	[PS]プロジェクトマネジメント・スキル強化	[PS]プロジェクトマネジメント・スキル強化	[PS]プロジェクトマネジメント・スキル強化
[B-05] プラントエンジニアリングにおけるプロジェクト管理とDX ~生産性向上のためのDX推進~ 東洋エンジニアリング 瀬尾 範章 / 劉 弘美 W	[B-06] 生成AIの現状と今後 ~システム開発への適用を含めたヒトの働き方変化を予測~ Ridgelinez 伊藤 清隆 P	[B-07] 拡大する生成AIのビジネス活用 ~技術の進展と利活用のポイント~ 独立行政法人情報処理推進機構(IPA) 古明地 正俊 W	[B-08] プロジェクトマネジメントの「スターキット」を考える ~失われた30年を乗り越える~ パラダイスウェア 橋本 将功 W
[PS]プロジェクトマネジメント・スキル強化	[PS]プロジェクトマネジメント・スキル強化	[PS]プロジェクトマネジメント・スキル強化	[PS]プロジェクトマネジメント・スキル強化
[B-09] ビジネスアジリティ獲得への道 ~組織変革の阻害要因と変革に向けたアプローチ~ 富士通 長谷川 健治 CfP B	[B-10] DX推進に必須なアジャイル文化を組織に定着させる ~組織アジリティDNAを持つ組織へ~ PMAJ会員活動 組織アジリティSIG 小原 由紀夫 B	[B-11] PMBOK®第7版12の原理・原則を伝える「秘密のエピソード」 ~ものがたり研究会成果ご紹介~ PMノウハウ継承研究会SIG 吉野 均 / 新谷 幸弘 / 藤曲 亜樹子 / 西岡 浩是 P	[B-12] Alter PMBOK®ガイド 第7版のプロジェクトマネジメント体系 ~「プロセス群実務ガイド」を含むPMI®のマネジメント体系全体像~ PMAJ会員活動 PM研究・研修部会 田中 繁光 W
[BS]戦略及びビジネスマネジメント	[SS]社会課題解決	[SS]社会課題解決	[SS]社会課題解決
[B-13] 今、デザインに何が可能か? ~PM思考とデザイン思考~ 環境デザイン機構 佐藤 俊郎 W	[B-14] 情報セキュリティ10大脅威とその対策 ~サイバーセキュリティに関する最新情報について~ 独立行政法人情報処理推進機構(IPA) 篠塚 耕一 W	[B-15] ファーストワンへの挑戦が新しい価値を創造する ~パース経営が生んだイノベーションで地元を盛り上げる~ アウグストビール 坂本 健二 B	[B-16] 外国人支援NPOのプロジェクトマネジメント ~コロナ禍3週間で構築5,000人を救った救済メカニズムとは~ NPO法人国際活動市民中心(CINGA) 新居 みどり W
[SS]社会課題解決	[IN]イノベーション	[IN]イノベーション	[IN]イノベーション
[B-17] いつでも、誰にでも「心地よい」を ~DEIBを高め、誰もが声を上げ、届けられる社会へ~ あつぎ気候市民会議実行委員会 徳光 みく / 水田 悠喜 CfP B	[B-18] 食農分野におけるICT活用の取組と事業推進のあれこれ ~業界課題や失敗談を交えて~ 農業ICT現場活用コンサルタント 川井 大輔 B	[B-19] 「水産×IT」が被災した漁業を活性化させ新たな仕組みを創る ~震災復興からの挑戦水産DX~ アンデックス 三嶋 順 B	[B-20] 地上に作る小さな太陽 ~フュージョン実験炉イーターとその開発最前線~ 量子科学技術研究開発機構 杉本 誠 CfP P
[HS]ヒューマンスキル	[HR]人材育成・働き方改革	[SH]その他人文科学分野	
[B-21] 企業活性化のためのEX向上 ~社員の多様性を活かし、社員一人ひとりに寄り添う取り組みを~ 日立ソリューションズ東日本 木村 香代子 / 矢作 裕美子 P	[B-22] リーダーが育つ変革プロジェクト ~DXを成し遂げるチームの作り方~ ケンブリッジ・テクノロジー・パートナーズ 白川 克 P	[B-23] マイプログラム2.0 ~実践から見えたマイプログラム成功の「鍵」~ ウェブアイ 原田 祥子 W	

[EX-06]	[EX-07]	[EX-08]	[EX-09]	[EX-10]
水平線上のプログラムマネジメントの基盤知識と認定 ~長年のミステリーが解消されます~ PeopleCert 松林 知史	プロジェクト・マネージャ・コンピテンシーについて 日立アカデミー 坂上 慶子	PMBOK®ガイドと日本の実務慣行の違い ~PMBOKガイドを正しく理解するために~ PMアソシエイツ 鈴木 安而	オンラインPM疑似体験ゲーム 日立ドキュメントソリューションズ 三原 克史	いま何故 P2Mか! ~価値共創時代のプログラムマネジメント~ 日本プロジェクトマネジメント協会 加藤 亨

主催者講演 SP-11

改訂第4版P2M標準ガイドブックの特徴解説

10:45~11:45

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 教授/P2M標準ガイドブック改訂委員会 委員長

当麻 哲哉 B



2014年に改訂第3版を出版いたしました「P2Mプログラム&プロジェクトマネジメント標準ガイドブック」ですが、その後10年を経て、社会の環境、変化のスピード、複雑性などが大きく変化してきました。PMの方法論もアジャイルを中心に多種多様化し、P2M標準ガイドブックも改訂を迫られてきました。そのような状況の中、2022年よりP2M標準ガイドブック改訂委員会を編成し、1年間の十分な議論と情報収集の期

間を取り、昨年度より執筆を開始して参りました。このたび、執筆・編集作業が終了し、晴れて出版の運びとなりましたことを、ここにご報告するとともに、どのような観点で改訂委員会で議論を重ねてきたのか、執筆にあたって、どのようなことに注意してきたのか、第4版の特徴を解説いたします。

【講師略歴】

1988年慶應義塾大学大学院修了、日米の3M社にて20年間新製品開発に従事した後、2008年より現職。博士(SDM学)、PMP、2010年より8年間PMI日本支部理事、2019年より1年間MIT訪問研究員、2020年よりPMI GACディレクター、2021年よりPMAJ理事、2022年よりP2M標準ガイドブック改訂委員会委員長。専門はプロジェクトデザイン。

特別講演 SP-12

プロジェクト・パフォーマンスにおけるチームワークとAIの未来

12:45~13:45

～プロジェクトマネジメントにおける計算の可能性とリスク～(日本語講演)

Massachusetts Institute of Technology System Design and Management, Academic Director

Bryan R. Moser P



組織の構造やパフォーマンスのあり方において、AIや計算が果たす役割はどのようなのか？ プロジェクトマネジメントにデジタルトランスフォーメーションをもたらすにはどうすればいいのか？

今日、私たちの最も複雑なプロジェクトは、新しい機会を約束しています：新エネルギーへの移行。自律走行車。ロボティクスとAIがサポートするサービス。スマートマテリアルとスマートシティ、画期的な医療、農業、海事システム。しかし、これらのエキ

サイティングな新しい機会是不確実で複雑であり、従来のプロジェクトマネジメントはあまり適していないかもしれません。

本講演では、最新の研究とMITで教えているエンジニアリング・チームワークのコースに基づき、モデルベースプロジェクトマネジメント、エージェントベースモデリング、計装化チームワーク分析など、計算でサポートするチームワークの最近の進歩について紹介します。

【講師略歴】

工学、科学、デザインチームが複雑な課題を設定し、解決策を練り、実世界にインパクトを与えるためにそれを実行することに焦点を当てている。チームと仕事が相互に作用する際の原理を明らかにし、モデルベースのシステム設計、戦略、アーキテクチャ、プロジェクト、コーディネーションなど、チームワークのための実践的な手法を研究している。マサチューセッツ工科大学(MIT)では、プロジェクト・マネジメントの研究と教育を指導している。

特別講演 SP-13

AI時代のリスクリング

14:00~15:00

～1人ひとりが学際的スキル(IDスキル)を持つ重要性～

一般社団法人ジャパン・リスクリング・イニシアチブ 代表理事 チーフ・リスクリング・オフィサー

後藤 宗明 W



AIやロボットによる労働の自動化が進む中、労働者の雇用が失われる技術的失業を防ぐために組織内でリスクリングを進めていくことが重要です。これからの時代を生き抜くために、自分のスキルをアップデートし続けるリスクリングが必要です。一方で、ChatGPT等の生成AIの進化により、労働における人間とAIの役割分担も変化していきます。AI時代に労働者1人ひとりが学際的スキル(IDスキル)を持つ重要性につい

てお話しします。何歳からでもスキルを身につけることは可能です。これまでに培ったマネジメント能力を起点に新たな可能性を切り開くリスクリングについて考えてみましょう。

【講師略歴】

現みずほ銀行入行後、米国フィンテック企業の日本法人代表、アクセンチュアを経て、AIスタートアップABEJAにてAI研修の企画運営を担当。2021年より現職、2022年AIを利用してスキル可視化を含むリスクリング支援を行う米国SkyHive日本代表に就任。著書に「自分のスキルをアップデートし続ける リスクリング」。

特別講演 SP-14

プログラム&プロジェクトマネジメントの実践例

15:15~16:15

～カタールLNGプロジェクトの記録～

千代田化工建設株式会社 NFEチーム プロジェクトアドバイザー

池田 誠一郎 W



プロジェクト(Project)とは、プロジェクトの特定ミッションを受けて、始まりと終わりのある特定期間に、資源、状況などの制約条件の基で達成を目指す将来に向けた価値創造事業であると、定義されている。この定義は、プロジェクトの大小に関わらず普遍である。North Field Expansionプロジェクトは、過去経験したカタールプロジェクトと比較して倍以上の生産設備を有し、その規模感からしてもこれほどのメガ

プロジェクトが、今後創出されるかはわからない。現在進行中ではあるが、このメガプロジェクトの遂行にあたり、プロジェクトマネジメントを実践していく中で、P2Mの標準ガイドブックに照らし合わせて、その事例を紹介するとともに、実践知とは何ぞやという点を解説する。

【講師略歴】

九州大学工学部応用化学科卒、千代田化工建設株式会社に入社。石油・石油化学・LNGの海外プロジェクトのPM/PDに従事。海外第2本部長・アブダビの関連子会社のMDを歴任し、NFEプロジェクトのPD。現在はNFEプロジェクトのアドバイザー。

特別講演 SP-15

歴史ある企業においてどのようにすればDXが実現できるのか

16:30~17:30

～CSDXの事例を通じて～

株式会社クレディセゾン 取締役 兼 専務執行役員 CDO 兼 CTO

小野 和俊 P



クレディセゾンのこれまでの5年間のDXの取り組みを紹介する。2019年にゼロから内製開発チームを立ち上げ、スマホアプリの一部機能から内製開発を開始。現在では120名規模のチームとなり、内製開発領域も基幹システム領域にまで拡大。2021年からは内製開発部門と情シス部門をひとつの事業部に統合し、文化も特性も異なる二つの組織が相互補完的に力を合わせて開発を進めている。2023年からは市民

開発者育成にも着手。ノーコード・ローコードツールを活用して総合職社員が自らの業務を自動化できるよう、育成を進めている。

【講師略歴】

1999年サン・マイクロシステムズ株式会社に入社。米国本社での開発などを経て2000年に株式会社アプレッソを起業、データ連携ミドルウェアDataSpiderを開発し、SOFTICより年間最優秀ソフトウェア賞を受賞。2013年にセゾン情報システムズとアプレッソが資本業務提携。2019年に株式会社クレディセゾンへ入社。取締役CTOなどを経て2023年3月より現職。

[PR] プログラムマネジメント (P2M) 実践

A-01

次世代の月探査プログラム

～有人と圧ローバーにおける不確定性マネジメント～



宇宙航空研究開発機構 有人宇宙技術部門
有人と圧ローバーエンジニアリングセンター 技術領域主幹 **神吉 誠志** CFP® W

宇宙飛行士が宇宙服無しで月面に長時間滞在し、長距離を移動することができる月面探査車として期待されている有人と圧ローバーは、NASA等が開発する周辺システムとの連携が重要であり、不確実な上位要求やインタフェース要求とのトレーサビリティ確保、上位要求変更時の影響評価等がキーとなる。また、月面走行技術、再生型燃料電池技術等の不確実性(技術リスク)の開発初期での低減、文化やプロセスの異なる非宇宙関連企業との連携等が重要となる。変革の時代において、不確実性下におけるマネジメントが不可避となるなか、ひとつの事例として有人と圧ローバーにおける取組みを紹介する。

【講師略歴】

2001年東京大学大学院航空宇宙工学専攻修士課程修了。同年、宇宙開発事業団(現JAXA)に入社。2006年まで衛星開発に従事し、2013年までシステムズエンジニアリングの推進に携わる。衛星開発を経て、2022年まで国際宇宙ステーション運用に従事し、現在は有人と圧ローバーにおけるプロジェクトマネジメント業務等に携わる。

[PR] プログラムマネジメント (P2M) 実践

A-02

製造業における企業内の「新規事業開発」

～強みやコア技術を活かした新規事業開発の実際～



PMAJ会員活動 新規事業プログラムマネジメントSIG **井口 佳一** P

株価が過去最高値を更新している一方、現実世界では激しい環境変化の中で既存事業の成長や生き残りに限界を感じ、ひとつの手段として「新規事業開発」を試みている企業も多い。しかし新事業を創り出すことは容易ではなく、多くの挑戦を伴うこの取り組みに苦慮されている企業も少なくないのではないか。そこで「製造業における自社コア技術を活用した新規事業」について、事例をベースにしながら成功・失敗要因、立上から上市、既存事業化するまでのプロセス(やり方)、推進体制など様々な切り口でエッセンスをお伝えし、新規事業開発に取り組まれている皆様へのヒントにして頂きたい。

【講師略歴】

大手鉄鋼メーカーのエンジニアからコンサルタントへ転身して20数年、製造業やサービス業、B2CやB2B、最終製品～素材まで様々な業界業種レイヤーにて、新製品開発や新規事業開発など新たな価値創造に特化した実践型コンサルティングを支援し続けております。

[PR] プログラムマネジメント (P2M) 実践

A-03

大阪関西万博海外パビリオン建設受命活動の時系列的変化

～オンプロセス・ポートフォリオマネジメントの実践～



PMAJ会員活動 APC (Advanced PMR Club) **坂井 剛太郎** B

大阪関西万博は2025年4月の開会に向けて急ピッチで準備が進められているが、その海外パビリオン建設の受命・受注活動に関しては2019年に遡る。周辺環境が整わない中で策定したプログラムは、その後前提条件が二転三転することに見直しが必要となり、ポートフォリオ自体を大きく変更・調整する必要に迫られた。本講演では、2019年6月に夢洲開発本部(万博推進室)国際対応リーダーの辞令を拝命して以来、2025年4月の開催に向けて前提条件が変化する活動プログラムのマネジメント活動をそれぞれのフェーズに分けて、オンプロセスでのポートフォリオマネジメントについての事例を紹介する。

【講師略歴】

1982年京都大学工学部建築学科卒業後、同年竹中工務店に入社。国内、タイ、アメリカでの工事施工経験の後、香港竹中代表、アメリカ竹中代表、朝日興産代表、竹中土木執行役員国際支店長を歴任し、2019年役員補佐、同6月夢洲開発本部国際対応リーダー兼務。技術士(経営工学、建設、総合技術監理)、日本技術士会フェロー。

[PM] プロジェクトマネジメント実践

A-04

Empowering project professionals in the age of DX & AI

～★英語講演+日本語字幕付き★～



PMI Asia Pacific Regional Managing Director **SoHyun Kang** P

(本講演は英語+日本語字幕付きです。英語に自信のない方も安心してご視聴いただけます。)
AIやDXの導入が急務となる中で、我々PMIの役割は、プロジェクトマネジメントの専門性を推進し、プロジェクト・プロフェッショナルのための継続的な学びとキャリアやスキルアップを支援することであり、それらの重要性はさらに増している。AIの活用により、プロジェクト・マネジャーはどのようにして生産性、効率性、プロジェクトの成功率を向上させることができるだろうか？ また、組織は、社員を変革の主体に位置付け、どのようにDXの力を活用できるだろうか？ これらの重要な問いに、PMIアジア太平洋地域を統括するSoHyun Kang氏が、グローバルに俯瞰して答えを導く。

【講師略歴】

PMIアジア太平洋地域統括ディレクターのSoHyun Kang氏は、各支部との連携強化、トレーニングパートナーの認可、マーケティングコミュニケーションなど、多くのチャネルで成長戦略を担当。常にステークホルダーに寄り添い、個人や組織に価値を生み出すソリューションを提供し、日本市場においても信頼が厚い。韓国・高麗大学で言語学学士号を取得。シンガポール国立大学でエグゼクティブプログラムを修了。PMP、DASM。

[PM] プロジェクトマネジメント実践

A-05

次世代に伝えたい! 火消しPMが語るPMBOK(R)ガイドでは学べない10個の秘訣



株式会社日立社会情報サービス 事業統括本部 事業統括部 主管 **松田 章** P

トラブルプロジェクトにおいてはPMの人間力によってメンバーのモチベーションが上がり、プロジェクトが成功することもある。本発表では講演者が突然トラブルプロジェクトの火消しPMに任命されてからなぜ自分が選ばれた理由を上司に問い詰めたのか、なぜ火事場であるプロジェクトにすぐに入らなかったのか、どのようにしてチームのモチベーションをあげたのかなど試行錯誤しながら行動し、得られたノウハウについてPMBOK(R)ガイドでは学べない泥臭い具体例を中心に講演する。また、その経験から学んだPMとしての心得についても述べる。

【講師略歴】

1985年入社、金融SE15年、公共SE17年、PMO6年。金融は汎用機のメモリ性能・設計を担当。公共では自治体パッケージ導入から官公庁SIまで経験し、トラブルプロジェクトの火消し経験あり。現在、社内教育の講師も担当。PM学会投稿 2020年
「ケースメソッドを活用したプロジェクトマネージャー育成のための研修手法」他2件。

[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化

A-06

本質を突く日常動作がPMを成功させる

～あなたの右腕は表1枚のテライチャート～



特定非営利活動法人 知恵創り協会 理事 **寺井 和雄** CFP® W

ガントチャートに代表される「何を・誰が・いつ」計画法は手段追求型で取扱注意。本来の目的を見失い、拙走や分断も生み、意欲・結束を損う。業務やプロジェクトは滞り、果ては失敗へ。
●スーパーマップ法改めテライチャートはこれを反面教師に考案・開発した。「何のため・誰のため・誰と」など、見えなかった目的、顧客や協力者との関係も表1枚に可視化。本質を突く計画は至難の自律管理を日常化した。
●その理念と実績は名経営者の技、とPMシンポ2016で評された。現在、活用は若者や学童の育成まで及んでいる。今回、八方よしの利点も掲げ、計画法の本質的見直しと働き手各人の変貌を促す。

【講師略歴】

川崎重工でヘリコプタの構造設計、プロジェクト管理、運航、営業、新製品開発等。主に国際プロジェクトや異業種事業の現場指揮を担い、定年退職後は企業、行政、教育・医療機関などの指導やまちづくりに携わった。今も各所でパーパス経営の本質とテライチャートを説き、共に実践して生産性向上や意識変革に挑んでいる。

[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化

A-07

両利きのプロジェクトマネジメント ～選択を可能とし組織コンテキストに介入する 新しいやり方～



株式会社トヨタシステムズ

河路 裕司

オライリーの「両利きの経営」はプロジェクトマネジメントと相似する。深化と探索、予測型と適応型の両立。現代のPMは予測型もアジャイル型も理解した上で、それをテラリングする能力を求められる。

当講演では、まずは現代のPMが知っておくべきプラクティスの選択肢をわかりやすく整理し、そこからいかにして素早く解像度の高い解を得るか、という方法論を解説する。

そして、それでもなお発生し続ける「組織の矛盾」を乗り越えるためにコンテキスト・マネジメントを提案する。コンテキストを切り口に組織課題に介入し、個の力を組織の力に昇華させる。

現場のプロジェクトマネジメントのレベルアップを行うための新しいやり方「両利きのプロジェクトマネジメント」である。

【講師略歴】

1990年よりメガバンクのシステム開発に従事。2003年よりトヨタシステムズにてウォーターフォール型の大規模プロジェクトのPMを歴任。2016年からPMOとして組織内のプロジェクトを横断的に指導。現在はアジャイルコーチ、トレーナーとしても活動。また、ITエンジニアの人材育成の企画・推進も実施。

[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化

A-08

可観測性実装による 攻めのクラウド運用管理 ～データ分析基盤で複雑化に備える～



エフサステクノロジーズ株式会社 インフラ運用サービス本部
第一インフラ運用事業部

大場 重志

クラウド利用とハイブリッドクラウド化が急速に進む一方で、システムの複雑さも増している。複雑化するクラウドシステムを運用管理するには、システム運用情報の収集・分析・評価によるシステム状態の把握、可観測性の導入が必要不可欠となる。その実現には、データ分析基盤を使用して膨大なメトリクス、ログ、トレース情報を分析・可視化する必要がある。また、可観測性に関する要件や分析に必要なデータの定義を事前に正確に理解しておくことが重要である。本講演ではクラウド上の勘定システムにおいて高い可観測性の実現に向けて実践を行った事例を元に、PMを含めた課題と対策について紹介する。

【講師略歴】

2004年4月エフサステクノロジーズ(株)(旧(株)富士通エフサス)入社。富士通ソフトウェア製品のサポート、金融系、官公庁における常駐型運用サービスリーダーを歴任。現在はクラウドシステム向け運用導入支援、運用自動化支援、DevOpsプラットフォーム導入支援などを行っている。

[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化

A-09

そろそろ失敗プロジェクトから 脱出ませんか？

～数多くの若手PMへの研修会を通じて～



PMマイスター/PM Office代表/PMIAJ 副理事長

前田 修

毎年約200名強のSE諸氏にプロマネノウハウの伝播・伝承をしている立場から、私見を述べたい。現状プロジェクトの成功率が物足りない状況を憂い、「そろそろ失敗プロジェクトから脱出しませんか?」と問いかけた。脱出のための施策は3点ある。

1点目は、プロマネ育成には組織がキチンと段階を踏まえて育成すること。

2点目は、これから述べる最低限のプロマネを身に付けること。

3点目は、育成のためのフォローアップを着実に実行すること。

これら3点が実践出来れば失敗prjは必ず減らせる。多くの経営層が経営課題として人材育成を高く掲げており、それに応えるためにももっと積極的に取り組むべきである。

【講師略歴】

1973年富士通(株)に入社。汎用コンピュータのCPUハードウェア設計を担務。1981年 SE部門に転属し、PMとして15年間システム開発を担務。その後15年間はPMOとして、プロジェクト診断活動の実践及びPM教育を自称「プロマネ伝道師」として全国に展開。2014年定年退職後、プロマネ研修の講師を実践中。現在、PMIAJ 副理事長。

[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化

A-10

エフィカシーで実現する アジャイルSDTs

～自律可能な開発チーム～



関西電力株式会社
法人営業計画グループ 水谷 洋太

株式会社オプテージ
コーポレートITシステム部 松田 拓大

複雑で変化が激しい「VUCA」と呼ばれる現代において、顧客に素早く価値あるプロダクトを提供するソフトウェア開発手法として「アジャイル開発」を導入する企業が増加傾向にある。しかしながら、アジャイル開発におけるPMでは、チームメンバー各々が自律して行動することを求められるなど、リーダーが先頭に立つ従来のPMとは異なるスキル・考え方が必要となる。本講演では、アジャイル開発未経験者が「アジャイル虎の巻作成プロジェクト」をアジャイル開発の技法を用いて実践した実話に基づき、「エフィカシー(自己効力感)に基づいたチームの自己組織化」、「アジャイル開発の魅力」をお伝えする。

【講師略歴】

水谷 洋太: 大学卒業後、2016年に関西電力株式会社入社。2019年にグループ会社であるNextPower株式会社へ出向しセカンドPMIを経験。出向解除後は、法人向けWEBサービスの維持・開発業務に従事。

松田 拓大: 大学院修了後、2020年に株式会社オプテージ入社。コーポレートITシステム部に自社サービス向けシステムを担当。

[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化

A-11

国連・欧州のプロジェクトマネジメント標準 におけるマネジメント組織と実践事例

～ビジネス・ユーザー・サプライヤの三位一体構造～



PMIAJ会員活動 PM研究・研修部会

尾形 順一

国連・欧州のプロジェクトマネジメント標準であるPRINCE2は、英国政府が開発したグローバルベストプラクティスであり、PMBOKと並ぶデファクトスタンダードである。本講演では、PRINCE2のマネジメント組織をテーマとして、ビジネス・ユーザー・サプライヤの三位一体構造にフォーカスをあてる。この組織構造は、PMBOKにはない考え方で、PRINCE2の独自性のひとつである。PRINCE2のマネジメント組織が、昨今のプロジェクトマネジメント、ウォーターフォール及びアジャイルにおいても優位性を有する点を考察、実践事例も交えて紹介する。

【講師略歴】

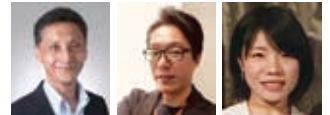
プロジェクトマネジメント高度化及び大規模アジャイルの専門家。PM研究・研修部会会員。DXコンサルティングファーム Ridgelinez所属。日立製作所、デロイト トーマツ コンサルティングを経て現職。セミナー講演、コラム・事例記事多数。PRINCE2® Practitioner, PMS, PMP®, CSP-CSM, A-CSPO, LeSS Practitioner 他。

[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化

A-12

PMIアジャイル実務ガイドと PMBOKの実践活用

～PMBOKガイド第7版との
関係を含め解説～



PMIAJ会員活動 PM研究・研修部会

大泉 洋一/河路 裕司/日吉 春華

プロジェクトの多様化や複雑化が進む中で、これからのプロジェクトマネージャには、ウォーターフォール型も、アジャイル開発も理解した上で、それらをテラリングして適用できるようになっていく必要がある。

本講演では、PMI®が2017年9月に発行したアジャイル実務ガイドを基に、アジャイル開発の基礎的な事項(代表的な手法、ツール、考え方等)を、分かり易く解説する。その上で、PMBOK第7版とアジャイル開発との関係性を整理して説明する。アジャイル開発とウォーターフォールを融合した、プロジェクトマネジメントの適用を必要とする、すべての関係者を対象に、実務に役立つ基礎知識を提供する。

【講師略歴】

大泉 洋一: 株式会社 JSOLにて、IT・DXコンサルタントとして、企業のDX推進に従事。河路 裕司: 株式会社トヨタシステムズにて、プロジェクトマネージャなどの人材育成の推進を担当。

日吉 春華: 株式会社トヨタシステムズにて、プロジェクトマネージャを担当。

[BS] 戦略及びビジネスマネジメント

A-13

次世代の企業をデザインする
アーキテクトの役割

～EA/TOGAFによるデータドリブン&AI時代の
企業変革～



Ridgelinez株式会社
Business Science Practice シニアマネージャ

中村 一仁 B

企業は今、人間の経験・勘・労働に基づく従来の企業活動から、データに基づくデータドリブンマネジメントやAIを活用した業務オペレーションへ大きな変革を求められている。一方で「2025年の崖」はすぐそこに来ているものの、部門ごとに段階的に増築されてきた情報システムが残存している企業も少なくない。本講演では、エンタープライズアーキテクトチャ(EA)の国際標準であるTOGAFを活用しながら、次世代の企業のアーキテクトチャ(データ・業務・システム)をどのように設計していくのか、アーキテクトとプログラママネージャがどう企業変革をリードして行けば良いのか、について紹介する。

【講師略歴】

富士通にて、金融業向け大規模システムのPM、企画～運用保守を担当。その後、EA・企画構想の専門家として、EA標準のTOGAFの日本語版の執筆(翻訳)、富士通内標準の策定に従事。現在は、富士通グループのコンサル会社であるRidgelinezにて、多くのお客様に伴走しながらDX戦略立案～実行(PgMO)のコンサルティングに従事。

[BS] 戦略及びビジネスマネジメント

A-14

成功のストーリーを描くために

～要求起点とシステム全体起点の「プランニング」の
継承～



富士通株式会社 Japan Global Gateway本部
シニアディレクター

御魚谷 かおる B

プロジェクトを「プランニングする」とは、プロジェクトマネージャーがプロジェクト成功への思いを込めて、達成したい顧客要求やシステム全体起点でプロジェクト計画立案を行うこと、即ち「成功のストーリーを描く」ことである。ITシステム維持・保守開発が中心となった約20年間においては、プロジェクトマネージャーはあえて戦略をもった成功のストーリーを描く機会は減少し、QCDを中心としたプロジェクト計画に留まっていた。個別最適ではなく全体最適及び価値提供などシステムに対する要求が変化する現在(いま)、「めざす姿」と「プランニング」へ原点回帰した当社の取り組みを紹介する。

【講師略歴】

超大規模政府系金融、主要省庁など大規模ミッションクリティカルシステムのプロジェクトマネージャー・プロジェクト責任者を長年担当。現在は全社のプロジェクトマネジメントCoEのプログラママネージャを担当。IPA 上流工程強化部会「システム再構築を成功に導くユーザーズガイド」など業界初の形式知化へ貢献。

[BS] 戦略及びビジネスマネジメント

A-15

生成AIの教科書

～生成AIでPMはどう変わるのか、
トレンドから事例まで解説～



AINOW編集長/Cinematrico Founder COO
生成AI活用普及協会 教議員

小澤 健祐 W

生成AIは、PMにとって新たな可能性を開く技術です。自然言語処理や画像生成などの分野で急速に発展し、製品開発やユーザー体験の向上に活用できます。一方で、倫理的な課題や品質管理などの留意点もあります。PMは、生成AIの長所と短所を理解し、適切に活用することが求められます。本講演では、生成AIの基本概念や活用事例を紹介し、PMがこの技術を効果的に導入するためのポイントを解説します。生成AIは、PMの業務を大きく変革する可能性を秘めています。その潜在力を引き出すために、PMは積極的に学び、実践していくことが重要です。

【講師略歴】

AI専門メディアAINOW編集長。著書に「生成AI導入の教科書」。一般社団法人生成AI活用普及協会協議員。ディップ、Cynthialy、SHIFT AI、THA、AI Booster、Lightblueなどでも活動。AI関連の登壇・メディア出演多数。

[SS] 社会課題解決

A-16

人が減っても豊かで幸せな未来を創る!

～より良い未来を次世代に繋ぐ～



一般社団法人DX NEXT TOHOKU
理事・事務局長

淡路 義和 B

以下についてお話をさせていただき予定で考えている。

- 一般社団法人DX NEXT TOHOKUを設立するに至った経緯
- この組織の存在意義、あり方
- デジタル化とは? DXとは?
- 具体的にどんな未来を思い描くか
- そのためにどんなアクションが必要か

【講師略歴】

大手ITベンダーでSE/PMとしてキャリアを積んだ後、自律したエンジニアが個性を活かせる組織・社会を創りたいという志を持ち、2009年株式会社コー・ワークス設立、ITを軸とした事業を展開。2021年「人が減っても豊かで幸せな未来を創る」をミッションとし一般社団法人DX NEXT TOHOKU設立、理事/事務局長に就任。

[SH] その他人文科学分野

A-17

何をしたら心理的安全性や働く幸せを
作れるのか

～働きがい向上につながるチーム力向上の取組事例～



TIS株式会社 品質革新本部
エキスパート

川野 いずみ P

- チームを対象とした取組み
50名ほどの組織で実施し、現在はTISインテックグループ全社に広めている、1年で働きがい調査の結果が32%向上した取組み事例。
 - 働きがい向上に影響する要素とは?
 - 心理的安全性をつくる具体的な取組み事例
 - 数字に現れた結果
 - 困難にぶつかからない推進方法
- ひとり一人の開花と働きがいあわせづくり
 - 「安心係」としての一人ひとりへの関わりの具体例(クロス1on1、コーチング)
 - ひとり一人の開花/自身のWill、Canに気づくことで、想いを持って自発的に仕事ができる仕組み
 - 組織の理念との重なり

【講師略歴】

TIS株式会社所属。金融系システム開発チームリーダーを経て2018年より働きがい向上施策の企画推進を担当。2023年心理的安全性AWARDゴールドメダル受賞。情報処理技術者試験PM、キャリアコンサルタント、ビジネスコーチ社認定コーチ資格保有。著書：静かなリーダーが心理的安全性をつくる(クロスメディアパブリッシング)。

[SS] 社会課題解決

A-18

「決済」を通じた変革への挑戦

～会津若松スマートシティの取組について～



TIS株式会社 ソーシャルイノベーション第1部長 兼
会津サービスクリエーションセンター長

岡山 純也 B

日本は人口減少社会に突入し、特に多くの地方都市では様々な課題に直面している。会津若松はこれら社会課題解決の手段として「スマートシティ」を推進する事でデジタル技術を活用し、持続可能な地域社会を創る挑戦を進めている。その中で「決済」領域はあらゆる産業を横串でつなぐ領域であり、この領域の取組を深化させることで地域に「データ」と「お金」という重要な資源を循環させる仕組みづくりに取り組んでいる。今回の講演ではスマートシティの背景と、決済の仕組みとなるデジタル地域通貨「会津コイン」の取組についてご紹介する。

【講師略歴】

2004年新卒でTIS(株)入社。SEとしてシステム開発/導入業務担当後、中国上海に出向し事業立上げに従事。帰任後は海外現地法人設立、金融/決済領域の事業立上げや事業クロージングに関わる等、新規事業の企画開発中心のキャリアを歩んだ。2019年よりスマートシティプロジェクトに参画し、事業企画活動に取り組んでいる。

[IN] イノベーション

A-19

未来を創造する生成AI:日本のビジネスにおける生成AIの活用とは?

~生成AIを用いたイノベーションと効率化の戦略を取り込む方法~



生成AIビジネス・ラボ (YouTube)

かわごん W

「未来を創造する生成AI:日本のビジネスにおける生成AIの活用とは?」では、生成AIを日本のビジネスに活用し、イノベーションを加速させる方法を探ります。実践的な例を交えて、生成AIが如何にプロセスの効率化、意思決定の改善、リスクの軽減に貢献するかを解説。参加者は、生成AIの力を用いて未来のビジネスを成功に導くための戦略を学びます。

[講師略歴]

かわごん(川口達也)は、中小企業や個人事業主向けのITビジネス全般に関する情報提供を行っているプロフリーターです。彼は複数の企業で代表取締役や取締役を務めており、特に生成AIエバンジェリストとしての活動も行っています。東芝でのOAシステム担当やマイクロソフトの日本MVPの下での修行、マレーシアでのプロジェクト進出など、多岐にわたる経験を持ちます。趣味は登山、バイク、仕事と多方面にわたり、現在はYouTubeでの情報発信やセミナー講師、ビジネスサポート、コンサルティングなどを行いながら、「生成AIで未知を斬り拓け」というテーマで活動しています。

[HR] 人材育成・働き方改革

A-20

ベテランPM経験知の継承と次世代育成

~時代や技術が変化しても有益な経験知とその活用~



細野技術士事務所
所長

細野 一雄 B

競争力維持向上のための知識継承は企業における重要な経営課題です。ところが技術が短いサイクルで変化する職種(SE職)においては「時代や技術が変化しても有益な経験知」の大半は、ベテラン個人に内在したまま、組織的な継承が難しい暗黙知となっています。そこで「次世代層とオンデマンドで対話しながら受け取って学んでもらう協創」も選択肢であることを示す研究書「経験知の継承から協創へ」を上梓しました。近年の雇用期間の延長によって可能となってきた新たなモデルです。変革の時代に適したPM人材育成と知的労働力としてのシニア層の活用の両立が可能になるのではないのでしょうか。

[講師略歴]

ITベンダーでのSE職。2000年頃にPMP資格取得推進業務も担当。社内Web「ノウハウ情報DB」と「暗黙知を共有し再利用する場を提供する社内ツール」開発を通してナレッジ・マネジメントの実務適用に深く関わる。2016年技術士(情報工学部門)。2022年博士(知識科学、北陸先端科学技術大学院大学)、同年より個人事業。

[HR] 人材育成・働き方改革

A-21

個人の内面成長とプロジェクトマネジメント

~IDGsを活用し、日本人の良さを活かしたPMを実践する~



フォレストリサーチ&コンサルティング株式会社
代表取締役

森 雅司 CFP P

SDGsの進捗が遅れている理由の一つは、個人の内面成長が不十分だからではないかという問題意識から近年進められている取組としてIDGs(Inner Development Goals)がある。内容としては、

1. 自分のあり方
2. 考える
3. つながりを意識する
4. 協働する
5. 行動する

の5つのカテゴリーに大きく分かれる。行動変容を起こす前の意識変容を起こすことを重要視しており、ウェルビーイングやマインドフルネスなど最近注目される分野に加えて、システム思考やU理論なども中心に据えられている。

今回は、IDGsの基本的なところに加えて皆さまの実務に役立つTips的なところをお伝えする。

[講師略歴]

大手監査法人にて監査を経験後、会計事務所設立、M&Aコンサルを経てIT系事業会社にて内部監査に従事。現在は、上場準備支援、内部監査業務受託、業務改善コンサルティングなどを幅広く実施する。近年は、地方創生&IDGsを活用した教育事業を展開中。東京都江戸川区生まれ。早稲田大学商学部1998年卒業。

[HR] 人材育成・働き方改革

A-22

変革の波への柔軟性と貫くべき不変性

~勝利に導いたWBC采配と12の原理原則の共通点~



AKKODISコンサルティング株式会社
アカデミー本部プロジェクトマネジメントチームリード

坂本 芳湖 P

プロジェクトを動かすとはどういったことなのだろう。プロジェクトが成功する時、私たちはそれをどう導いているのか、導くための多くの戦略や考え、また感情はどのように変化しているのだろうか。そしてその結果、どのような成果を生み出し、価値を創出しそして次につながるのだろうか。

去年、日本を歓喜に沸かしたWBCでの監督采配には、プロジェクトを成功に導くヒントが数多くみられる。チームを優勝に導くためにどのようなビジョンをもち、どのような価値を想定し、創出したのか。PMBOK7の12の原理原則と対比しながら、プロジェクトマネージャーとして心がけるアクションや信念について考察していく。

[講師略歴]

自動車部品開発プロジェクトのプロジェクトマネージャー、GPMO業務でのプロジェクトマネージャー育成、開発プロジェクトプロセスの改善等に従事し、現在はコンサルティング会社のアカデミー部門でプロジェクトマネジメント研修を実施。「プロジェクトは人によるもの」を信念にしています。

[SS] 社会課題解決

A-23

SDGs事業立ち上げ支援活動をした5年間の軌跡

~PMI日本支部による事業者伴走の実態と課題~



一般社団法人PMI日本支部
SDGsスタートアップ研究会 理事・部会代表

稲葉 涼太

一般社団法人PMI日本支部
SDGsスタートアップ研究会 PMOリーダー

西原 真仁 W

PMI日本支部SDGsスタートアップ研究会は、内閣府「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」に分科会を立ち上げ、各法人の新規SDGs事業の立ち上げをアジャイル型の「SDGsスタートアップ方法論」を使って2019年から支援しており、この4月で6年目に入りました。

具体的に、ベーシックコースとアドバンスコースという2種類の支援プログラムを通して、延べ100団体以上の各事業者様へのサービス提供を行い、その成果も出始めている。

以前、PMシンポジウム2022において上記方法論の概要をご説明したが、今回改めて場をお借りし、各支援プログラムの実施状況や主な成果・今後の課題について、実際の事例を基にご説明したい。

[講師略歴]

稲葉 涼太: TIS株式会社。大手上場Sler、大手コンサルティング会社勤務、ベンチャーコンサルティング会社の共同設立等を経て現職。専門は人的資本経営、人事業務、人事システム、プロジェクトマネジメント、アジャイル、SDGs、ESG等。
西原 真仁: 日本IBM株式会社。他SlerでPM、PMO、CSIRTを経験。現職はセキュリティ担当。

P2M資格体系

略称	資格名称	到達能力水準
PMR	プログラムマネジャー・レジスタード (Program Manager Registered)	プログラムマネジャーとしてプログラムミッションを達成するための十分な実践力としての実務遂行能力、判断力、対人折衝能力などのコンピテンスおよび経験を有すること (プログラム・プロジェクトマネジャーに必要なP2M実践力を保有)
PMS	プロジェクトマネジメント・スペシャリスト (Project Management Specialist)	プロジェクトを実際に遂行するプロフェッショナルとしての知識全般を有すること (プログラムマネジメントを含むP2M全般知識を修得)
PMC	プロジェクトマネジメント・コーディネータ (Project Management Coordinator)	プロジェクトの各マネジャーの下でプロジェクトの一員として実務遂行できる基礎知識能力を有する (P2Mにおけるプロジェクトマネジメントのコア知識を修得)
PMCe	プロジェクトマネジメント・コーディネータ・エントリー (Project Management Coordinator - Entry)	※PMCの受験資格 PMAJ発行の「プロジェクトの概念」を学習し、単位を修得 (但し学生に限る)

詳しくはホームページをご覧ください。

特別講演 SP-21 Hayabusa 小惑星探査と 2代目 Hayabusa2 の差異

～コンボ担当/プロマネ双方の立場から～

10:45～11:45

宇宙航空研究開発機構 理事、宇宙科学研究所長

國中 均 W



初代 Hayabusa 探査機は、世界初の試みとしてイオンエンジンを用いて、未踏峰の小惑星 Itokawa に到達し、サンプルを地球に持ち帰るという野心的且つ挑戦的計画であった。構成要素の各系にはそれぞれ 110% の性能を要求し、仮に 5 系あったならば 110% の 5 乗 = 161% の機能が発揮される。結局、Hayabusa 探査機は、計画より 3 年遅れの 2010 年に地球帰還を果たした。しかし物作り/PM として本方式は、全

くの暴挙と言わざるを得ない。各系には Derating した 90% の性能を割り当てて、90% の 5 乗 = 59% でシステムをまとめるべきである。または、リスク評価した上で work-around 策を準備しなくてはならない。苦い経験に根拠してマネジされた 2 代目 Hayabusa2 探査機は、小惑星 Ryugu から計画通り 2020 年に地球帰還を成し遂げ、延長ミッションを継続中である。

【講師略歴】

1988 年東京大学大学院博士課程修了、工学博士。同年文部省宇宙科学研究所助手。2003 年「はやぶさ」小惑星探査機イオンエンジンを開発。2005 年より宇宙科学研究本部教授。2012 年「はやぶさ 2」プロジェクトマネージャ。2018 年 4 月より現職。専門は電気推進・プラズマ工学。2021 年紫綬褒章。2024 年米国防空宇宙学会名誉会員。

特別講演 SP-22 富士通のデリバリー変革と挑戦

～全社レベルでの一体型デリバリーを進めるためのポイント～

12:45～13:45

富士通株式会社 グローバルデリバリーBG ジャパン・グローバルゲートウェイ 本部長

齋藤 伸一 B



富士通はお客様に持続的に IT サービスを提供しつづけるために、お客様のニーズ要件に合わせたシステム開発・デリバリーを提供してきた。しかしながら、日本国内は「2025 年の崖」で称される IT 人材不足に直面しており、当社もこれまでの個別最適でのデリバリー提供では限界を感じるようになってきた。これを打破するため、お客様ごとに組織化されているビジネスグループから、エンジニアリソースを一部門に集約しグローバルメンバーとの連携を強化、徹底的な標準

化・オフショア拡大、そして人材の流動化を目指すジャパン・グローバルゲートウェイを 2020 年に立ち上げた。本講演では、ジャパン・グローバルゲートウェイの立ち上げのキーとなったヒエラルキーを排除した「One Delivery」への取り組みと挑戦について紹介し、今後のプロジェクトマネジメントに求められることとプログラムマネジメントの必要性について述べる。

【講師略歴】

1993 年富士通株式会社に入社。公共系システムのプロジェクトマネージャとしてシステム開発に従事。2010 年にフィリピンオフショア拠点に赴任し、オフショア開発センター長として人材育成・標準化を推進。2021 年度ジャパン・グローバルゲートウェイ本部長代理、2023 年度から同本部長として会社のデリバリー変革をリード。

特別講演 SP-23 リ・スキリングの前に人生のリ・デザインから

～人生 100 年、豊かに生きるマインドとスキルとは～

14:00～15:00

法政大学 キャリアデザイン学部 教授

廣川 進 P



ミドル、シニア世代には受難の時代になりました。こんな声が聞こえてきます。「頼んでもいないのにゴールポストは勝手に延ばされ(定年延長)、ロスタイムくらいに思っていたら、延長戦どころかフル試合をアウェイで、しかもルール変更(ジョブ型雇用、自律型キャリア、リスキリング等)を余儀なくされて戦わなくてはならない、どうやってやる気を出したらいいのか…。」私は企業内のミドル、シニア対象の研修会と面談

を通して多くのミドル・シニアの方と面接をしてきました。その経験もご紹介しながら、上記の「ライフ」の視点を組み込んで、人生のデザインを再構築することが重要であることをみなさんと一緒に考えてみたいと思います。ヒントは、サニー・ハンセンの「4L 理論」、Love (愛・家族・絆)、Labor (仕事)、Learning (学び)、Leisure (自由時間) がバランスよく統合させることにあるのではないかと思います。

【講師略歴】

公認心理師、臨床心理士、シニア産業カウンセラー、日本キャリア・カウンセリング学会前会長。出版社に勤務後、大学教員の傍ら、企業領域のカウンセリングや、コンサルティング、研修講師等に従事。主な著書に、「失業のキャリア・カウンセリング」、「心理カウンセラーが教える「がんばり過ぎて疲れてしまう」がラクになる本」「これで解決! シゴトとココロの問題」。

特別講演 SP-24 2030 年の品質保証は質価値創造へ

～モノ中心意識・評価基準・プロセスの大変革～

15:15～16:15

2030 年の質価値創造研究会 専務理事/一般社団法人中部品質管理協会 企画部主査

細見 純子 P



「100 年に一度の大変革」を掲げ、「2030 年の品質保証」のあるべき姿を描かんと、自動車業界の方々と共にこの命題に取り組み始めて 7 年目となります。私が 30 年以上身を置く自動車業界では、悪直にカイゼンを繰り返し、自らを鍛錬し、良いモノを生み出すことに注力してきました。今や MaaS や CASE などの「コトを成り立たせるために多様なステークホルダーと協力してモノを活かす」ビジネスモデルへの変換を余儀なくされる状況下、考察する中で様々な課題が見えてきました。

一番の変化は、「顧客が変わる」こと。これまでの顧客は「所有者」でした。今後は、所有を伴わない「利用者」や「社会」が対象になってきます。これは「求められる品質が変わる」ということを意味し、価値を生み出すプロセス、評価基準、それを司る人、企業風土、価値基準なども、大きく変革を求められることとなります。こまごまの取組を皆様へ共有できれば幸いです。

【講師略歴】

30 年以上、海外への品質管理普及推進、国内外トヨタグループへのトヨタ流マネジメント普及推進・指導に従事。加えアート思考他多様なテーマの指導も担当。「IoT 時代の品質保証研究会」立上げ、2021 年「2030 年の品質保証」(日科連出版社)執筆。2022 年「2030 年の質価値創造研究会」を創設/主催。水墨画家の側面も持つ。

特別講演 SP-25 生成 AI とソフトウェア開発への応用

～AI in the Loop～

16:30～17:30

有限会社デザイナーズデン 代表取締役社長

酒匂 寛 W



2022 年末に ChatGPT が一般公開されて以来、生成 AI (Generative AI) に注目が集まり、様々な分野への応用が始まっています。もちろんソフトウェア分野への応用も例外ではなく、特に直接的なコーディング能力に関してはさまざまな記事や SNS の投稿が見られます。とはいえ、生成 AI の応用分野は単なるコーディング領域にとどまるものではありません。いわゆる上流工程と呼ばれる部分にも様々な応用が考えられます。問題の発見、問

題の定義、解決案の模索、解決案のとりまとめ、仕様としてのとりまとめなど、上流から下流の開発工程に現れるさまざまな文書・モデル作成を生成 AI は手助けしてくれる可能性があります。本講演ではソフトウェア開発という文脈から照らした生成 AI の可能性とその応用、簡単なサンプルを交えながらお話しする予定です。

【講師略歴】

東京大学農学部畜産獣医学科卒。汎用機上の COBOL プログラミングを皮切りに、COBOL 統合開発環境やワークステーションのシステムプログラミングを経て独立。開発手法のコンサルティングと導入支援を行う。現時点では形式手法を始めとする信頼性の非常に高い開発手段を、生成 AI で支援することで普及させたいと思っている。

[PR] プログラムマネジメント (P2M) 実践

B-01

富士通がグローバルで挑む 「OneERP+」のリアル

～データドリブン経営の実現に向けた変革～



東 大祐 **B**

富士通株式会社 CEO室 Data & Process
Division長 CDPO補佐

富士通ではデータドリブン経営の実現に向け、グループ・グローバル全体でデータと業務プロセスの標準化を行う「OneERP+プログラム」を2020年にスタートし、まもなく本稼働を迎える。OneERP+は、基幹システムの再構築という単なるITプロジェクトではなく、経営起点の改革プロジェクトとして全従業員を巻き込みながら取り組んでいる。

4,000以上のシステムと散在するデータの全体最適化を行い、富士通がどのように生まれ変わろうとしているのか、また、大規模プロジェクトを率いるプロマネの経験談として、従業員12万4千人を対象としたチェンジマネジメント活動の難しさ、導入後のCoE体制構築など、今まさに動いている現場の実態を紹介する。

【講師略歴】

2002年富士通に新卒入社。ERP導入を伴う業務改革プロジェクトを複数リード。株式会社富士通総研にて、ERP導入プロジェクトの構想立案を行う組織を立ち上げた後、CEO室へ異動し、2020年より富士通グループのデータドリブン経営実現に向けた全社業務改革プログラムである、「OneERP+」/「OneCRMプログラム」を率いる。

[PR] プログラムマネジメント (P2M) 実践

B-02

P2Mのフレームワークを用いた 戦略的思考力育成研修



吉村 真人 **CFP P**

株式会社日立製作所 原子力ビジネスユニット
原子力事業統括本部 事業主管

戦略的思考力、問題解決力の育成を目的として、P2Mのフレームワークを活用した社内研修を実施しており、その概要および成果について紹介する。事業環境の変化に対応して、従前の仕事の仕方に捉われず、ゼロベースで事業課題に取り組み、社会が求める価値提供に向けてコトを起こせる人材が必要とされている。このような人材に必要な戦略的思考力の育成にP2Mのプログラムマネジメント、特にミッションプロファイリングのプロセスが活用できると考え、研修プログラムを策定した。実施中の研修プログラムの概要と合わせ、評価方法や受講生のフィードバックから得られた知見についても紹介する。

【講師略歴】

1982年日立製作所入社。一貫して原子力発電所の建設、拡販、事業開発プロジェクトに従事。2015年～2020年まで原子力国際技術本部本部長。2021年以降現職。1999年～2001年に経済産業省の委託事業として行われたP2Mの開発に従事。P2Mガイドブック初版の執筆メンバーの一人であり、現在まで様々な形でP2Mの活動に関与している。

[PR] プログラムマネジメント (P2M) 実践

B-03

PMRが語る プログラムマネジメントの 実践応用

～プログラムマネジメントの活用事例～



枝窪 肇 / 林 健太郎 / 星野 隆之 **P**

PMAJ会員活動
APC (Advanced PMR Club)

Advanced PMR Clubは、プログラムマネジメントの普及促進を目的に2018年より活動しており、2020年よりPMシンポジウムにおいて「プログラムマネジメント事例」を紹介してきている。今回は、業務において、プログラムマネジメントを実務に取り入れ実践応用した事例を紹介する。

1. 建設会社のサステナビリティへの取り組み
 2. 大学のPBL(Project Based Learning)型授業におけるP2M適用の試み
- 多くの企業・大学で同様の取り組みが行われている中、今回はいずれも、プログラムマネジメントに精通したPMR資格保持者によって成果を得た事例であり、P2Mを理解する一助として活用いただけると確信している。

【講師略歴】

枝窪 肇: 電機メーカー勤務35年、システムエンジニアリング～PM～品質保証に従事。
林 健太郎: 建設会社勤務36年、建築設計～プロジェクトマネジメント～経営企画～技術営業～CSR推進に従事。
星野 隆之: IT企業勤務39年、社内教育部門～PM～PM研修講師～研究部門に従事。非常勤で大学講師も担当。

[PR] プログラムマネジメント (P2M) 実践

B-04

R&Dフェーズの プログラム・プロジェクトマネジメントの 勘どころ(実践事例紹介)



今野谷 史 **B**

PMAJ会員活動 研究開発マネジメントSIG

新商品/ソリューションを提供し事業化を図るプロセスの中でR&D(研究開発) フェーズのプログラム・プロジェクトマネジメントにおける「課題はわかっているけど解決できていない」「これってどう考えるべきか」といったテーマについてSIGメンバー(新谷、内田、大村、調、その他)の各業界の実践事例も交えて発表します。「会社幹部といかに研究開発フェーズの価値や投資を共有するか?」「研究開発の成功要因と失敗要因は何か?」「研究開発フェーズにおけるリスクマネジメントとは?」「研究開発フェーズをリードするマネージャーに求められること」など、あなたと一緒に考えてみませんか。

【講師略歴】

半導体分野における設計開発/事業部門のPMOを経て現在はCEO直属部門で全社のプロジェクトマネジメントスキル向上も担当。過去445件の新製品、新技術開発プロジェクト・プログラムの1,134回の意思決定プロセスに参画。PMAJ協会員としてR&D SIG、組織アジリティSIGで活動中。今回はR&D SIGの活動結果を代表して発表。

[PM] プロジェクトマネジメント実践

B-05

プラントエンジにおける プロジェクト管理とDX

～生産性向上のためのDX推進～



瀬尾 範章 / 劉 弘美 **W**

東洋エンジニアリング株式会社 DXoT推進部

プラント建設プロジェクトでは、不確実性や情報不足という課題が常につきまとう。そのため、連続的に意思決定を行わなければならない。意思決定の質はプロジェクトの成功に大きく関わるが、情報収集にはコストやスケジュールの制約がある。そこで、データを活用して効率よくデータを情報に変換し、客観的な視点から意思決定を行うことで質を高めることができる。さらに、未知の要素や不確実性を考慮し、シミュレーションやシナリオ分析を行うことで、想定外の事態にも対応できるように準備することが重要である。TOYOでは、不確実性の高い時代に対応できるプロジェクトマネジメント手法の開発に取り組んでおり、本手法を紹介する。

【講師略歴】

瀬尾 範章: 2004年入社。2015年から同社史上最大の海外EPCプロジェクトのプロジェクトエンジニアリングマネージャーを務め、2019年DXoT推進部長就任。
劉 弘美: 2014年入社。2021年よりDXoT推進部配属。AWPにおける次世代プロジェクトマネジメント手法の業務改革、その実現のためのシステム構築に携わり、現在実プロジェクト適応を支援中。

[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化

B-06

生成AIの現状と今後

～システム開発への適用含めたヒトの働き方変化を予測～



伊藤 清隆 **P**

Ridgelinez株式会社 Enabling & Integration Practice
執行役員Partner 兼 CIO

世の中の生成AIの爆発的な関心の高まりにより、莫大な投資が続きこれまで、AI技術革新がこれまでにない加速で成長している。この技術革新から生まれた生成AIと従来のAI技術の利用者目線での違いと生成AIを技術とは別の視点でどう我々ヒトは捉えるべきなのか。企業・組織レベルにおいても生成AI活用により、これまでヒトが行ってきた企業活動がどう変化し、この変化にヒトがどう対応していくべきかを予測する。その上で、システム開発への適用や他ユースケース事例から、現状の具体的な生成AI活用による生産性向上が狙える領域を解説する。

【講師略歴】

エネルギー、製造、情報通信、不動産など幅広いクライアントに対し、IT戦略構想策定やローコードPFやアジャイルによる新規事業企画、BPR、内製化人材育成支援等を多数手がける。Ridgelinez社内実践知をベースに生成AIコンサルサービスをリリース、多数のクライアントにて業務定着化から先進的取り組みまで幅広くリード。

[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化

B-07 拡大する生成AIのビジネス活用
～技術の進展と利活用のポイント～



独立行政法人情報処理推進機構 (IPA) 総務企画部
シニアエキスパート

古明地 正俊 W

AI、特に生成AIの技術の進展は、ホワイトカラーの各種業務の飛躍的な生産性の向上などをもたらすだけでなく、創薬や材料分野など多くの産業領域に革新的な変化を与えつつある。いっぽう、企業や組織が生成AIを活用するためには、利活用のためのノウハウやリスクに対する十分な理解が不可欠である。本講演では、生成AIの技術動向と企業・組織での導入プロセスや活用上の注意点を解説するとともに、具体的な導入事例について紹介する。

【講師略歴】

独立行政法人情報処理推進機構 総務企画部シニアエキスパート。大手メーカーにおいてパターン認識の研究、民間シンクタンクにて先端テクノロジーの動向調査および技術戦略の立案などに従事。2018年からIPAにてAI白書やDX白書などの事業を統括。主な著書に「ITロードマップ」、「AIまるわかり」などがある。

[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化

B-08 プロジェクトマネジメントの「スターターキット」を考える
～失われた30年を乗り越える～



パラダイスウェア株式会社
代表取締役

橋本 将功 W

日本は「失われた30年」の間に国際競争力や労働生産性が大きく低下し、個々の企業においてのみならず、社会においても物事への取り組み方の変革が大きな課題になっている。今後、少子高齢化がもたらす労働人口の急減や競争が激化する国際的なビジネス環境に適應するために必要なのは、「プロジェクトマネジメントの民主化」とそれを実現するための、誰でも低コストで獲得できる「スターターキット」としての知識体系ではないだろうか。本講演では、日本社会とプロジェクトマネジメントのあり方の現状を踏まえ、どのような知識体系が求められているかについて説明する。

【講師略歴】

早稲田大学第一文学部卒業。文学修士(MA)。IT業界24年目、PM歴23年目、経営歴13年目、父親歴9年目。Webサイト/Webツール/業務システム/アプリ/組織改革など、500件以上のプロジェクトのリードとサポートを実施。世界中のプロジェクトの成功率を上げて人類の幸福度を上げることを人生のミッションとする。

[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化

B-09 ビジネスアジリティ獲得への道
～組織変革の阻害要因と変革に向けたアプローチ～



富士通株式会社 Division Go To Market & Strategic Partner
マネージャー

長谷川 健治 CFP® B

ビジネス環境の変化が激しい時代、企業はニーズの変化に迅速に対応することが不可欠となっている。これまでのビジネスは事前計画型で進めてきたが、計画型では価値を提供するスピード感が不足する時代に突入している。企業はスピードを意識し、DX実現に向けた取り組みを行っているが、ビジネスアジリティの獲得は容易ではない。特に組織のルール、縦割り化した組織構造による厚い壁は、解決が困難な課題である。ビジネスアジリティ獲得を阻害する要因に組織としてどう向き合って変革マインドを醸成していくかを紹介する。

【講師略歴】

富士通の保守サービスの品質管理部門、UNIXサーバの保守技術開発を経験したのち、サービスの商品開発を担当。ビジネス部門の代表として、アジャイル開発のプロダクトオーナーとしてスクラムを経験。現在は、お客様のビジネスアジリティ獲得を支援するプロダクトオーナーコーチ、エンゲージメントリードとして活動している。

[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化

B-10 DX推進に必須なアジャイル文化を組織に定着させる
～組織アジリティDNAを持つ組織へ～



PMAJ会員活動 組織アジリティSIG

小原 由紀夫 B

変化が激しい環境では予測困難な変化に組織全体でビジネスにおける俊敏性を支える文化(アジャイル文化)が必要になる。企業は、アジャイル文化を永続的に組織文化・風土として定着させる組織アジリティDNAを持つべきである。組織アジリティSIGでは、アジャイル文化を組織の壁を越えて組織に定着させる3つのアプローチを確立した。その3つとは、①顧客を主役とする顧客中心型イノベーションの推進、②変化に対応し、失敗から学ぶが適応を促す環境の構築、③俊敏になるための共通目的の確立である。日本の特徴の「協調」、「自律」、「危機対応力」を活かしたアプローチにより日本企業のDX推進成功に貢献する。

【講師略歴】

個人コンサルタント。グローバル500社の組織変革に貢献したケイデンスマネジメント社認定講師。グローバルPMIのエグゼクティブであるジョン・パットン氏に15年間師事。2022年まで富士通株式会社にてDXのためのアジャイルを推進。PMAJ編「アジャイル開発への道案内」他を共著。PMP、SPC。

[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化

B-11 PMBOK® 第7版12の原理・原則を伝える『秘密のエピソード』
～ものがたり研究会成果ご紹介～



PMノウハウ継承研究会SIG
(略称:「ものがたり」研究会) 吉野 均/新谷 幸弘/藤曲 亜樹子/西岡 浩是 P

当講演では、研究会メンバーが作成した、PMBOK® 第7版12の原理・原則を伝える『秘密のエピソード』を3つご紹介する。『秘密のエピソード』は、他者が知らない修羅場経験を伝えるための簡単で便利なフレームワークである。一つ目は、海外パッケージ適用プロジェクトの原因不明のトラブルを、発注側と受注側という立場を越えチーム一丸となって解決した事例である。二つ目は、合併プロジェクトにありがちな出身企業同士の企業文化の違いに翻弄された受注側リーダーが何とか乗り越えた事例である。三つ目は、大型工場建設における度重なる設計変更を、設計リーダーがデジタル変革により乗り越えた事例である。

【講師略歴】

吉野 均: 物語りラボ代表。当研究会幹事。富士通で「ものがたり」作り実践。
新谷 幸弘: 千葉工業大学教授(技術経営・イノベーション研究室主宰)。横河電機や3Mで研究開発を牽引。
藤曲 亜樹子: BIPROGY株式会社 グループ内部監査部長。大規模PMの経験。
西岡 浩是: 竹中工務店 国際支店設計部シニアチーフアーキテクト。

[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化

B-12 After PMBOK® ガイド 第7版のプロジェクトマネジメント体系
～「プロセス群:実務ガイド」を含むPMI®のマネジメント体系全体像～



PMAJ会員活動 PM研究・研修部会

田中 繁光 W

2021年7月にPMBOK® ガイド 第7版がPMI® より発行された。全世界でPMP® 資格取得者は140万人を超えており、PMBOK® ガイドは、プロジェクトマネジメントの知識体系・フレームワークとして事実上のグローバルスタンダードとなっている。2022年10月には、プロセス群:実務ガイドが発行され、アジャイルを含めた全てのプロジェクトに共通するフレームワークと、伝統的なプロセスベースの手法を踏襲したフレームワークがハイブリッドされた構成となってきている。PMBOK® ガイド 第7版が原理・原則ベースとして発刊されるに至った背景を踏まえ、プロセス群:実務ガイドを含むPMI® が発行するガイド類を含めた全体像を捉え、これからの時代のプロジェクトマネジメント手法の体系について考察、解説する。

【講師略歴】

SOMPOシステムズ株式会社にて、生命保険システムのプロジェクト業務に従事。

【BS】戦略及びビジネスマネジメント

B-13 今、デザインに何が可能か？ ～PM思考とデザイン思考～



株式会社環境デザイン機構
代表取締役

佐藤 俊郎

不安定、不確定で先が読めない時代において「デザイン」や「アート」思考が注目されている。東京大学がデザイン学部の新設を発表し、アメリカのGAFAM経営トップにアート関連出身者が多いと言われている。なぜ、今、デザインやアートなのか、アート、クラフト、デザインの形成過程を歴史的に振り返り、様々なプロジェクト事例を引用しながら、その秘密を解いていく。また、人新世と呼ばれる加速度時代において、資本主義社会の限界やデザインが果たすべき役割、プロジェクトマネジメントとの関連などに言及し、そのあるべき姿を模索する。

【講師略歴】

1953年生まれ、修猷館高校、九州芸術工科大学(現九州大学)環境設計学科、UCLA大学院修士課程終了。GKインダストリアルデザイン研究所(東京)、GKDesign International(ロスアンゼルス)、Kajima Associatesなどを経て、1992年帰国、1993年(株)環境デザイン機構設立、代表取締役として現在に在る。

【SS】社会課題解決

B-14 情報セキュリティ10大脅威とその対策 ～サイバーセキュリティに関する最新情報について～



独立行政法人情報処理推進機構(IPA)セキュリティセンター
対処調整部 脆弱性対策グループ 主幹

篠塚 耕一

ITにおけるプロジェクトの遂行に重大な影響を及ぼす情報セキュリティ事故が相次いで発生しています。今回は、情報処理推進機構が毎年発表している「情報セキュリティ10大脅威」の最新版をもとに、脅威の傾向と企業の従業員が行うべき具体的な対策について詳しく解説いたします。特に、サプライチェーンの弱点を悪用した攻撃、内部不正による情報漏えいの被害、不注意による情報漏えいの被害など、プロジェクトを遂行する上で発生する可能性がある脅威を中心に話したいと思っております。

【講師略歴】

IT企業に入社し、ソフトウェア開発に従事しながら、生体認証システムを利用したセキュリティ事業を推進してきた。2023年にはシステム開発経験を買われ、IPAに転職した。現在は、セキュリティ対策の普及をすべく「情報セキュリティ10大脅威」に関する執筆や講演に取り組み、普及活動に尽力している。

【SS】社会課題解決

B-15 ファーストワンへの挑戦が 新しい価値を創造する ～パーパス経営が生んだイノベーションで 地元を盛り上げる～



アウグストビール株式会社
代表取締役

坂本 健二

20年前に人生の夢であった「世の中で一番美味しいビール」の造り手となるべくアウグストビール株式会社を立ち上げ、「無ろ過樽生のアウグストビール」を日本で初めて世に送ることが出来ました。2022年には、リラクゼーション効果があることで注目される「CBDビール」を日本で初めて発売しました。最近では、当社のマイクロブルワリー、マイクロディスティラリー技術を活用し、地元のお店がビール工場やウイスキー蒸留所を併設した「地域の新名所」の地位を確立するビジネスの支援をしています。「地元の特徴を生かしたクラフトビール」というブルーオーシャンを開拓することで、地元を盛り上げる取組みを紹介します。

【講師略歴】

1978年慶応義塾大学経済学部卒業後にキリンビール株式会社入社。在職中にウイスキー醸造学修士課程大学院へ留学(MBA取得)。キリンUSA副社長、パドワイザー・ジャパン営業統括本部長、ペンカイザー・ジャパン代表取締役、ジャーディンワインズアンドスピリッツ常務取締役を経て2004年8月にアウグストビール株式会社を起業。

【SS】社会課題解決

B-16 外国人支援NPOの プロジェクトマネジメント ～コロナ禍3週間で構築し5,000人を救った 救済メカニズムとは～



NPO法人国際活動市民中心(CINGA)
コーディネーター

新居 みどり

CINGAは外国人相談と地域日本語教育の領域で専門的に活動してきた。コーディネーターを中心に社会課題解決のためプロジェクトベースで事業を展開してきた。行政のみならず企業と連携してプロジェクトを実施するノウハウは在住外国人支援領域という日本においてマイナーな領域だからこそ独自の進化を遂げている。コロナ緊急事態時に短期間で立ち上げ5,600件の相談対応を行った「外国人新型コロナ生活相談センター」におけるプロジェクトマネジメントを振り返り解説をする。在住外国人340万人、史上最高値を記録した今、組織に求められる多言語・多文化プロジェクトマネジメントについて考える。

【講師略歴】

京都府出身。早稲田大学大学院文学研究科修了。東京外国語大学多言語多文化教育研究センター、国際移住機関(IOM)コンサルタントを経て、2011年よりNPO法人国際活動市民中心(CINGA)にて勤務。東京都外国人新型コロナ生活相談センターほか、各種新規事業の立ち上げを担当。法務省、文化庁等の有識者委員を務める。

【SS】社会課題解決

B-17 いつでも、誰にでも 「心地よい」を ～DEIBを高め、誰もが声を上げ、 届けられる社会へ～



あつぎ気候市民会議実行委員会
運営事務局リーダー

徳光 みく

あつぎ気候市民会議実行委員会
ファシリテーターチームリーダー

水田 悠喜

皆さんはDEIBという言葉をご存じでしょうか？多くの組織が多様性(Diversity)だけではなく公平性(Equity)、包括性(Inclusion)、さらに近年は帰属意識(Belonging)も重要であるとの認識が高まっています。私たちは昨年、神奈川県厚木市で行われた気候市民会議に運営メンバーとして関わりました。そこでは参加市民同士が互いに尊重しあい、公平に考えや意見を発言できる場が求められます。公正な会議を実現するためには、運営メンバー内部のDEIBの確保も欠かせません。プロジェクトや組織そのもののDEIBを見つめ直すことで、よりよい成果に繋がらないか一緒に考えてみませんか？

【講師略歴】

徳光みく：市民活動が生きがいの社会派ライン工。1990年生まれ。2022年に気候市民会議を知り、翌2023年にあつぎ気候市民会議実行委員会に参加。水田悠喜：建設会社の会社員。気候危機解決やジェンダー平等実現、動物の権利獲得などの活動をしている。インターセクショナルな視点かつ公正な移行を伴った社会構造の変革を目指す。

【IN】イノベーション

B-18 食農分野におけるICT活用の取組と 事業推進のあれこれ ～業界課題や失敗談を交えて～



農業ICT現場活用コンサルタント

川井 大輔

就農人口が年々高齢化し、ノウハウの継承にも時間がかかる農業。一方で、我々の生活の食を支える大切な産業であるため、数多くの企業がICTによる支援やDXによる新しい農業のあり方を模索してきました。また、自らが農業を行う企業参入の流れも加速し、一つのムーブメントが起きた一方で、そのマネタイズの難しさから多くの企業が撤退していった。食・農業の業界における新規事業は、どのような課題から始まり、何につまづいていくのか。複数社において複数回農業ビジネスにチャレンジしてきた講師が、自らの失敗談とともにそのビジネスの難しさやICTの果たす役割とその可能性について述べる。

【講師略歴】

大日本印刷(株)、日商エレクトロニクス(株)、富士通(株)、西日本電信電話(株)【現職】
※今回は個人の立場で、複数社で経験してきた食・農業ビジネスについて講演いたします。
・農業ICT企画開発・PoC推進・開発・現場導入コンサルティング(生産履歴システム、記帳システム、トレーサビリティなど)
・農業現場の課題抽出と解決策としてのデータ活用支援等

[IN] イノベーション

B-19 「水産×IT」が被災した漁業を活性化させ新たな仕組みを創る
～震災復興からの挑戦水産DX～



アンデックス株式会社
代表取締役

三嶋 順 **B**

ソフトウェアの開発やコンサルティングを行うアンデックス。ITで被災地を支援しようと水産ICT分野に参入した。「マリンIT」を研究するのはこで未来大学の和田教授から海洋観測ブイの提供を受け、海洋データ閲覧アプリ「ウミミル」を開発。漁業者が海で確認していた海水温などを遠隔確認する仕組みを作り、作業効率化を図った。実証実験後、NTTドコモ、海洋機器メーカーと共に実用化を進める。2023年までに全国の海にICTブイ100基以上を導入。競合相手とも協力し、水産×IT・水産DXの推進に努めている。

【講師略歴】

昭和61年東北高校普通課卒業。在学中は野球部で米国メジャーリーグで活躍した、佐々木 主浩氏、斎藤 隆氏の女房役としてキャッチャーを務める。雪印食品(株)、日東シュリンプ(株)(現・(株)ハウス)、ネットワークサイエンス(株)を経て平成20年に仙台市にアンデックス(株)を設立し、代表取締役に就任。

[IN] イノベーション

B-20 地上に作る小さな太陽
～フュージョン実験炉イーターとその開発最前線～



量子科学技術研究開発機構 イーター日本
国内機関長

杉本 誠 **CFP P**

地上に小さな太陽を作りエネルギーを取り出す研究開発は、1950年代から日米欧ソで始まった。研究開発が進捗し、現在イーター(ITER)と呼ばれる水素を用いたフュージョンの実験炉の建設が南フランスで進んでいる。これは、日欧米露中韓印の7極(35か国)の国際協力で進められており、日本はその中核を担っている。イーターではその主要な機器をそれぞれ異なる国で開発、製造し、これを現地に輸送し、組立を行う。多種多様な文化を持つ人々が協力して、前人未到の装置を建設するが、これ自身大変複雑で挑戦的な事業である。本発表では、現状のフュージョン開発環境の変化、イーターの現状を報告する。

【講師略歴】

1962年12月、宮城県生まれ。1989年3月東北大学大学院工学研究科博士課程単位取得退学。同年4月、日本原子力研究所(現量子科学技術研究開発機構)入所。核融合炉工学の研究開発に従事。2018年イーター日本国内機関長、2022年那珂研究所副所長、現在に至る。工学博士(東北大学)、技術士(機械/原子力・放射線部門)。

[HS] ヒューマンスキル

B-21 企業活性化のためのEX向上
～社員の多様性を活かし、社員一人ひとりに寄り添う取り組みを～



株式会社日立ソリューションズ東日本
ES向上推進部 部長

木村 香代子

株式会社日立ソリューションズ東日本
ES向上推進部 主任

矢作 裕美子 **P**

多様化した社会/デジタル化社会を企業が生き抜く上で、優秀な人材の確保、離職率の低下、生産性の向上は最重要課題である。その解決策のひとつとして、最近では「EX(Employee Experience)向上」が目ざされ、取り組む企業が増えている。当社では、EX向上において、社員一人ひとりの「自律」「主体的チャレンジ」「多様な能力の発揮」により、成長と生きがい、働きがいを感じられる環境の整備と組織の活性化が重要と考え、様々な取り組みを行っている。今回は、特に力を入れている「コミュニケーション活性化」、「ダイバーシティ」、「ワークスタイル改革」の活動事例を中心に話をする。

【講師略歴】

木村 香代子: 1988年、システムエンジニアとして入社。2006年に総務部門へ異動し社員教育に10年間携わる。2016年からES向上業務に従事。2020年より、公益財団法人せんだい男女共同参画財団理事を務める。モットーは「社員一人ひとりに興味を持つ」。
矢作 裕美子: 2011年入社。採用、教育、労務担当を経て、2016年からES向上業務に従事。キャリアコンサルタント資格を活かし、社員一人ひとりを意識した対応を心がけている。私生活では3児の母。

[HR] 人材育成・働き方改革

B-22 リーダーが育つ変革プロジェクト
～DXを成し遂げるチームの作り方～



ケンブリッジ・テクノロジー・パートナーズ株式会社
COO

白川 克 **P**

デジタルによるビジネス変革の推進はいまや企業にとって喫緊の課題です。ところが多くの企業には「変革プロジェクトを担うリーダーがいない」「変革プロジェクトをやったことがないのでリーダーを育てられない」というジレンマに陥っています。それを一気に解決するのが育つ変革プロジェクトです。本講演では、変革プロジェクトを推進する中で、変革リーダーとなり得る人材を育てるための仕掛けについて具体的にお伝えしていきます。

【講師略歴】

プログラマーとしてキャリアをスタート。ケンブリッジ・テクノロジー・パートナーズに転職後、業務改革、システム構築などのプロジェクトを数多く経験。ファシリテーションを武器に、コンセプト立案やチームビルディング、人材育成を得意とする。現業の傍ら執筆活動もしている。主な著書は「業務改革の教科書」など。

[SH] その他人文科学分野

B-23 マイプログラム 2.0
～実践から見えたマイプログラム成功の“鍵”～



株式会社ウェブアイ サービス本部 コンサルティンググループ

原田 祥子 **W**

プログラムマネジメントを自分の人生に当てはめて活用する「マイプログラム」…この手法に出会ったことは人生どん底にいた2019年当時の私にとって転機となった。マイプログラムを通して自身の課題を明確にし、解決策を導き出し、実践していく…この過程を繰り返すことで私の人生はどんどん向上していったのである。これからの時代を生き抜くためにマイプログラムが有効であることを確信した私は、これを広く世に広めたいという思いから、自身の実践、社内外での研修・講演活動を行ってきた。今回は活動を5年以上続けてきたことで見えてきた、マイプログラム成功の“鍵”についてご紹介する。

【講師略歴】

プロジェクトマネジメントに特化した事業を展開している株式会社ウェブアイにてPMおよびPMOとして様々なプロジェクトの支援を行っている。2019年に「マイプログラム」を誰もが実践しやすい形式に教材を整備し、研修プログラムを構築。PMシンポジウム2020での講演、フェリス女学院での授業講師を始めとして幅広く活動中。

PMAJ会員活動へのお誘い

ご自身のPM知識を磨き経験を積む場として、PMAJの会員になって活動されたいかがでしょうか。
PMAJの活動を支える組織として**部会**が、専門的な分野で研究し展開する組織として**SIG**があります。
また、PMAJ会員には、動画アーカイブやコンテンツの視聴、研修への特別割引制度の適用など特典があります。
興味のある方はぜひご入会ください。

部会

例会部会 PMシンポジウム部会 PM研究・研修部会
Advanced PMR Club P2M普及・推進部会 交流会
PM研究部会(北海道、東北、中部、関西、中四国、九州、沖縄)

SIG (Specific Interest Group)

研究開発のマネジメント Wtech 組織アジリティ
ロードマッピング チェンジマネジメント グローバルPM
新規事業プログラムマネジメント PMDX-AWP
PMノウハウ継承研究会 価値創造PM人材育成研究会

詳しくはホームページをご覧ください。

TIS千代田システムズ株式会社

EX-01

2024年問題状況下におけるPMシステム利活用

～2024年問題さなかのPMシステム利活用。その定着の難しさや解決策について～



TIS千代田システムズ株式会社 EPMソリューション部
プリンシパル

山口 亮二

昨今、日本の建設業は、「高齢化・労働人口の減少に伴う人材不足」、「働き方改革・長時間労働の禁止」など、いわゆる「2024年問題」に直面しており、労働力が不足している。そういった現状の中でも、今までと同レベルかそれ以上の仕事の成果を上げることが求められている。労働効率を上げる方法の一つとして、「PMシステム」の利活用が注目されているが、日本国内全体にその動きが広がっているとは言えない。それはなぜか。弊社が長年培ってきた経験から、「導入に関するトレンド」、「導入のむずかしさ」、そしてその導入の難しさを克服するための「弊社の具体的な取り組み」についてお伝えしたいと考える。

【講師略歴】

プラントエンジニアとして、配管設計・施工管理・営業に従事。その後、メーカーの3D-CADモデルをマーケティング利用促進支援する会社にて、営業としてBIM/CIM関係会社への提案業務、研究会などへの参画に従事。2021年現職。PMシステム導入、運用支援業務に従事している。

株式会社アジャイルウェア

EX-02

開発現場を盛り上げたらトラブル0になった件

～エンジニアリングの力を引き出す、PMの秘策～



株式会社アジャイルウェア
Redmineエヴァンジェリスト

小林 稔央

これからプロジェクト管理ツールを導入される方もすでに導入済みの方も、チームにどうやって活用してもらうか、きつとお悩みのことでしょうか。開発業界向けに、Redmineエヴァンジェリストのぼうこが「8年間トラブル0件」のノウハウを交えながら、プロジェクト管理ツール導入のその前段階で大切なポイントを解説します！

【講師略歴】

大手製造会社で組み込みソフトウェアのPMを務め、8年間、リリース遅延、市場トラブル流出、ともにゼロのチーム運営を行った経験を持つ。また、Redmineエヴァンジェリスト等のコミュニティ活動を通して、3桁に迫るチームへのRedmineの導入、見直しに協力。夢は悩めるすべてのPMや担当者を救済すること。某芸能事務所CEO。

パナソニック ソリューションテクノロジー株式会社

EX-03

プロジェクトマネジメント資格と対策講座のご紹介

～P2M資格(PMC、PMS)にチャレンジ!～



パナソニック ソリューションテクノロジー株式会社
教育ソリューション部

中島 貴代子

当シンポジウム主催の日本プロジェクトマネジメント協会が実施している、プロジェクトマネジメント資格「P2M」は、「プロジェクトマネジメント」に加え、新規事業創造に必須の「プログラムマネジメント」の知識も身に付く数少ない資格である。IT技術者だけでなく、エンジニアや営業職、学生など幅広い層がチャレンジしている。ここでは、P2Mの特長のほか、資格体系、試験形式、申込方法や受験資格など、資格取得までの流れを分かりやすく説明する。あわせて、当社のP2M資格試験対策講座シリーズ(eラーニング)を使ったおすすめ学習スケジュールも紹介する。個人で資格にチャレンジしたい方や、組織にてPM人材育成を担当している方にぜひご覧いただきたい。

【講師略歴】

P2M資格試験対策講座には制作から関わり、15年間販売を担当しています。PM人材育成のご相談お待ちしております。
▼P2M資格試験対策講座シリーズ
<https://www.panasonic.com/jp/business/its/hrd/projectmanagement/p2m.html>
▼そのほかにも幅広く人材育成メニューをご用意しております。
<https://www.panasonic.com/jp/business/its/hrd.html>

グローバルプロジェクトデザイン・ジャパン株式会社

EX-04

イノベーションを起こすプロジェクトデザイン思考

～DXプロジェクトへの対応能力について～



グローバルプロジェクトデザイン・ジャパン株式会社
代表取締役

池 大

日本の企業に求められているのは、イノベーションを起こす体質に変革をすることです。そのためには、素早く製品やサービスを提供することが重要になります。様々な仮説を素早く用意し、検証し、絶えず修正しながら、真のイノベーションを起こす製品やサービスに昇華する必要があります。従来の全ての計画を立ててからプロジェクトの実行に移すのでは、スピード感が足りません。走りながら計画を立てると言った、ダイナミックなプロジェクトが必須になり、それらを管理するための手法としてプロジェクトデザイン思考が必要になります。本講義では、プロジェクトデザイン思考とそれを実現するソフトウェアであるTeamPortを説明します。

【講師略歴】

グローバルプロジェクトデザイン・ジャパン株式会社代表取締役。IT業界で30年以上の経験。IT関連のプロジェクトにSEおよびコンサルタント、PMとして多数参加。また企業のアジャイル開発導入に向けての教育/支援を行っている。リスクマネジメント協会会員 Certified Risk Manager。

日本アタウェイ株式会社

EX-05

プロジェクトを成功に導くチェンジマネジメント

～PMに求められる新たな能力とは?～



日本アタウェイ株式会社 グローバルコンサルティング事業部
ディレクター

和田 円香

社会のデジタル化に伴うDXが注目を集める中、約半数のITプロジェクトが失敗している現実が浮き彫りになっている。プロジェクトの失敗は企業にとって負の影響を与え、その背景にはテクノロジーの側面だけでなく、人的側面の不備もある。チェンジマネジメントはプロジェクトにおける人的側面を支援する考え方であり、活用することでプロジェクト成功の確率が7倍にも向上することが示されている。本講演ではチェンジマネジメントの概念やモデル・方法論を紹介し、チェンジマネジメントがどのようにプロジェクト成功に寄与するのか、また、PMがチェンジマネジメント能力を獲得する意義について説明する。

【講師略歴】

ビジネスコンサルタントとして数十年の経験を持ち、長らくチェンジマネジメントを推進してきた。日本アタウェイ入社後、チェンジマネジメントサービスや研修サービスの立ち上げを主導。数百名のチェンジマネジメントプラクティショナーの資格認定を支援している。Prosci® Certified Advanced Instructor。

PeopleCert

EX-06

水平線上のプログラムマネジメントの基盤知識と認定

～長年のミステリーが解消されます～



PeopleCert international アジアパシフィック
在日代表

松林 知史

国連のような国際組織または長期的投資が事業を左右する巨大組織(政府、自動車、製薬、基盤産業等)では、職務にPMPまたはPRINCE2と要求され、プログラムマネジメントではMSPと記載されます。Portfolio Management Officeの基盤となるPRINCE2、PRINCE2 Agile、MSP、P3Oなどの研修と認定試験が日本語化されました。既に、PM資格をお持ちの皆様より高い組織での成果を出すには、皆様の周りの組織風土と関係者のナレッジとスキルを変えることが重要かもしれません。組織全体の環境づくりのために、PRINCE2/MSP/P3Oをベストプラクティスのエッセンスをテイラリングして定着させませんか。

【講師略歴】

銀行員として電子取引決済市場のためのサービスとシステムの企画開発とPLを担い、香港、シンガポール、ロンドン、NYCに10年駐在。帰国後、米国トムソン社と英国ピアソン社の現地法人CEOを経て、NYCで金融法人向け低遅延型電子取引のサービス会社を設立。アジアを所管。現在はPeopleCertの日本代表。経済同友会会員。

株式会社日立アカデミー

EX-07 プロジェクト・マネージャ・コンピテンシーについて



坂上 慶子

株式会社 日立アカデミー 研修開発本部
プロジェクトマネジメント統括マネジャー

プロジェクトマネージャには、PMBOK ガイドに示される表出能力としてのスキルや能力のみならず、潜在のおよび保有能力、性格、行動特性などのコンピテンスが求められる。質の高い優秀なプロジェクトマネージャを、いかに少ない経験が必要なコンピテンスを向上させるかが課題であり、確実かつ早期に、そして継続的にプロジェクトマネージャ育成を行うためには、職場でのOJTだけでなく、研修などのOff-JTが不可欠である。本講演では、当社のプロジェクトマネージャ育成教育が提供するコンピテンス学習の取組みについて紹介する。

【講師略歴】

計測制御メーカー系 SI企業にて約20年間システム開発に従事。多様なシステム開発経験を生かして、技術系インストラクタに転向。2007年、株式会社日立インフォメーションアカデミー(現 日立アカデミー)入社。プロジェクト・マネージャ育成教育分野責任者として年間の受講者数25,000人規模をマネジメント。PMAJ理事。PMI日本支部理事。プロジェクトマネジメント学会委員。PMP、PMAJ公認PMS、日本ポジティブ心理学協会認定プラクティショナー。

PMアソシエイツ株式会社

EX-08 PMBOK®ガイドと日本の実務慣行の違い



鈴木 安而

PMアソシエイツ株式会社
代表取締役

PMIが発刊するPMBOKガイドはグローバル標準と謳われ、日本のPMP資格保持者は5万人を超えている。ところが日本では、せっかくPMP資格を取得したにもかかわらず、実務にはあまり役に立たない、という声が聞こえる。その原因の一つとして、PMBOKガイドの内容が日本の実務慣行にマッチしていないことが挙げられる。日本から世界に向けてのプロジェクトマネジメントに関する情報発信がほとんどないことが主な原因の一つであるが、その部分を踏まえた上で、本講演ではPMBOKガイドの内容と日本の実務慣行の違いについて解説し、PMBOKガイドの内容のさらなる理解と活用に役立てられることを期待する。

【講師略歴】

2006年より、PM教育研修に軸足を置く、PMアソシエイツ株式会社の代表取締役となる。PMBOKガイドの第4版以降、主管として翻訳に携わっている。その他プロジェクトマネジメントに関する著作多数あり。近年では、「PMP完全攻略テキスト」(翔泳社)、「PMBOK第7版の活用」(秀和システム)などの出版がある。

株式会社日立ドキュメントソリューションズ

EX-09 オンラインPM疑似体験ゲーム



三原 克史

株式会社日立ドキュメントソリューションズ EPCプロジェクト本部
おしごとマネジメント支援室 室長

プロジェクトマネージャは、プロジェクトで起こり得る事象に対して迅速かつ的確に意思決定を行うための感性(実践知)を磨く必要がある。しかし、偶発的状況で発生する問題の解決策を学ぶことが、ビジネス多様化の中難しく、弊社ではその学習環境を提供する、PM疑似体験ボードゲームを開発し運用してきた。更に昨今のビジネススタイルの変化に対応するため、新たにオンライン研修スタイルを開発した。ボードゲーム運用での知見を活かし、プロジェクトの流れでの対応力に加えて、PM知識体系でのリスクに関する形式知の認識なども重要視し新たな研修へと進化させた。

【講師略歴】

1995年(株)日立製作所に入所後、産業・流通分野の業務改革プロジェクトに従事、その後、(株)日立コンサルティングを経て、現在に至る。(株)日立ドキュメントソリューションズでは、プロジェクトマネジメント業務の企画、IT構想策定、さらに、プロジェクトマネジメント人材育成プログラムの開発・展開に取り組む。

日本プロジェクトマネジメント協会

EX-10 いま何故 P2Mか!



加藤 亨

日本プロジェクトマネジメント協会
理事長

P2Mガイドブック初版の冒頭に「今後、日本企業は『ものづくり』中心の発想から転換して『仕組みづくり』による再生に注力しなければならない」と、プログラムマネジメント型経営への転換を提言しました。VUCAの時代と言われる現代社会において、価値共創の仕組みであるプログラムマネジメントはますます重要となっており、その指針としてP2Mガイド第4版を発行しました。第4版では、プログラムマネジメントの全体像を明確に示す「P2M事業モデル」をベースに、事業戦略～プログラム～プロジェクトに至る一連の流れを実践しやすい体系として提供します。新しい教養としてのP2Mの概要を概説しますのでぜひご視聴下さい。

【講師略歴】

1978年 千代田化工建設(株)入社後、同社の様々な情報化プロジェクトを担当。同社グループ企業の執行役員、取締役、社長を歴任。2019年7月より日本プロジェクトマネジメント協会理事長に就任し現在に至る。PMAJ公認PMS、米国PMI公認PMP、技術士(情報工學部門、総合技術監理部門)、情報処理技術者試験システムアナリストなど。

2024年度PMセミナー開催予定



地図出典：イラストストック

● ライブ配信・オンデマンド配信には、Zoomを採用

■ 事前に視聴環境の確認をお願いします。

ネット接続ができる環境で、PC・スマホ・タブレットなどから視聴できます（画面はフルHDで配信する予定です）。

視聴にはZoomアプリが必要ですので、お申込みの前に（Zoom提供のテストページ）にて接続確認テストをしてください。

当日、お客様の通信サービスや利用機器、ブラウザなどの影響により、視聴ができない場合、PMAJでも対応ができかねる場合がございますのでご了承ください。

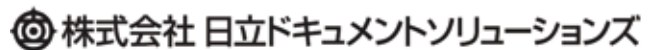
● ライブ講演を会場で受講する場合

■ Day1、Day2それぞれ会場で受講いただけます。申込時に会場参加を選択してください。

● ライブ配信・オンデマンド配信を問わず、配信内容の録画・録音、ならびに正規申込みされた方以外の視聴は禁止とします。

■ 講演動画の著作権は、講演者およびPMAJに帰属しており、この動画の一部分または全部を著作権者に無許可で使用することは、著作権法に反することとなります。

協賛・パートナー企業



展示コーナー、懇親会についてご案内します。

● 展示コーナー

スポンサー企業による展示を5階会場にて行います。プロジェクト管理の技法・ツール・ソフトウェアの紹介、PM資格の取得・活用、プロジェクト・マネージャー育成などに関する教材・資料が展示されます。是非ご来場頂きますようお願いいたします。

また、スポンサー企業による講演を「Day1/Day2 共通」として録画配信します。本パンフレットのP15、P16に講演概要をご案内しています。PMシンポジウム2024に申し込まれた方は、Day1、Day2の一方のみを申し込まれた方でも視聴できますので、是非ご視聴願います。



● 懇親会

9月5日(木)Day1終了後の17時50分から、タワーホール船堀2階の『蓬萊』にて懇親会を開催します。講師・参加者・PM関係者と交流し、PMコミュニティ活性化の場としてご活用下さい。PMシンポジウム2024にお申込みの方は、どなたでも無料で参加できますので是非お越し下さい。参加希望の方は、お申込み時に「懇親会参加」を選択して下さい。



フロアマップ

<https://www.towerhall.jp/floormap/>



● 最新情報はPMAJの公式WEBページにて随時更新します。

■ 詳細情報につきましては、下記URLからご確認ください。

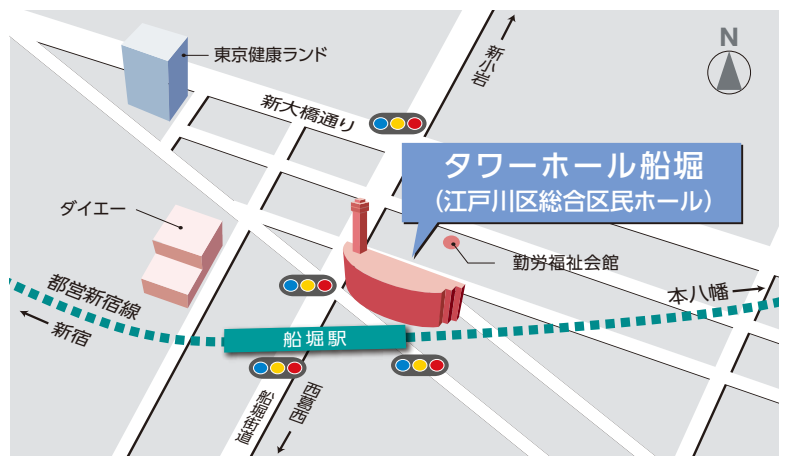


<https://www.pmaj.or.jp/sympo/2024/index.html>

● 会場ご案内

タワーホール船堀5階「大ホール」の受付にお越し下さい。

ACCESS 都営新宿線 船堀駅下車 徒歩1分



東京都江戸川区船堀 4-1-1 TEL.03-5676-2211



お申込み方法

WEBページにてお申込みを受付けます。『PMシンポジウム2024』のご案内ページをご参照ください。
<https://www.pmaj.or.jp/sympo/2024/index.html>

参加申込み期限・お支払い方法

	早期割引申込	通常申込	オンデマンド配信のみ申込
申込期限	～7月31日(水)	8月1日(木)～8月27日(火)	8月28日(水)～9月30日(月)
支払期限	～8月5日(月)	8月29日(木)	・クレジット払いのみです。 ・申込受付後2営業日以内に決裁願います。 *決済確認後2営業日以内に視聴用URLを送付します。

お申込み受付後、電子メールにて参加費等を記載したお申込み受付確認メールをお送りいたします。
 また、お振込み時には、参加者名及び電子メール(受付確認メール)に記載のお申込み番号を必ずご記入ください。

- ※クレジットカードご利用の場合の手続きは、WEBページに記載しています。
- ※企業名でお振込みの場合は、事前に参加者名及びお申込み番号を事務局までお知らせください。
- ※請求書払いをご希望の場合は、余裕をもってお申込み願います。
- ※請求書・領収書はすべてメール添付での送付となります。
- ※恐れ入りますが振込み手数料はご負担ください。
- ※お申込み後のキャンセル手続きは、WEBページに記載しています。

口座名：三菱UFJ銀行 本店 普通 0737079
 名義人：特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会
 トクビニホンプロジェクトマネジメントキョウカイ

お問い合わせ

日本プロジェクトマネジメント協会・事務局
 E-mail : admi-sympo-cs@pmaj.or.jp TEL.03-6234-0551 FAX.03-6234-0553

参加費

注) 参加申込み時にPMAJに入会申込みの場合は会員扱いとなります。入会ご希望の方は、下記URLからお手続きください。
<https://www.pmaj.or.jp/kyoukai/nyuukai.html>

(上段：税込価格、下段：消費税10%)

	早期割引 〔～7月31日(水)〕			通常申込 〔8月1日(木)～8月27日(火)〕			オンデマンド配信のみ申込 〔8月28日(水)～9月30日(月)〕		
	Day1	Day2	Day1、Day2 通し	Day1	Day2	Day1、Day2 通し	Day1	Day2	Day1、Day2 通し
PMAJ個人会員	11,990円 (1,090円)	11,990円 (1,090円)	23,300円 (2,118円)	14,000円 (1,272円)	14,000円 (1,272円)	26,000円 (2,363円)			
PMAJ法人正会員の職員	14,500円 (1,318円)	14,500円 (1,318円)	28,200円 (2,563円)	19,000円 (1,727円)	19,000円 (1,727円)	33,000円 (3,000円)			
PMC、PMS、PMR有資格者	17,000円 (1,545円)	17,000円 (1,545円)	33,300円 (3,027円)	20,000円 (1,818円)	20,000円 (1,818円)	38,000円 (3,454円)	25,500円 (2,318円)	25,500円 (2,318円)	48,000円 (4,363円)
ENAA賛助会員/後援・協賛 団体の職員、PMI会員、 ITC資格者	23,300円 (2,118円)	23,300円 (2,118円)	42,600円 (3,872円)	25,000円 (2,272円)	25,000円 (2,272円)	45,500円 (4,136円)			
一般参加者	23,800円 (2,163円)	23,800円 (2,163円)	46,000円 (4,181円)	25,500円 (2,318円)	25,500円 (2,318円)	48,000円 (4,363円)			
学 生	無 料 <small>学生を本分とする方(社会人学生は対象となりません)。要学生証提出。証明書等は発行いたしません。</small>								

*PMシンポジウム2024に参加申込された方は、懇親会は無料です。

Day1 —— 【内容】基調講演+特別講演 会場参加：9月5日、ライブ配信：9月5日／オンデマンド配信：9月10日～10月6日
 一般講演 オンデマンド配信：9月5日～10月6日

Day2 —— 【内容】基調講演+特別講演 会場参加：9月6日、ライブ配信：9月6日／オンデマンド配信：9月10日～10月6日
 一般講演 オンデマンド配信：9月6日～10月6日



PMAJ
 特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会
 Project Management Association of Japan (PMAJ)

日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ)は、P2Mの資格試験や講習会、PMAJ会員のための定例の勉強会、PM研修、機関誌(PMAJジャーナル)の発行等を通じて実践的PMの普及活動を行っています。
 このPMシンポジウムも会員によるPM実践の場として、多くのボランティアメンバーを交え企画運営されています。